

平成30年度

# 龍ヶ崎市定住促進プロジェクト成果報告書



龍ヶ崎市

市長公室企画課

平成31年2月

# 目 次

1	龍ヶ崎市定住促進プロジェクトの概要について	
(1)	設置の目的 -----	1
(2)	構成メンバー -----	1
(3)	スケジュール及び活動内容 -----	2
(4)	今年度の検討内容（方向性）及び施策提言案 -----	4
2	報告書編	
(1)	中間報告書（平成30年11月5日定例庁議報告資料）	
	「取り組み状況と今後の方向性」 -----	5
	【コラム】研修会・セミナーなどに参加して -----	24
(2)	成果報告書（平成31年2月4日成果報告会資料）	
	「6つの政策提言と市のあるべき姿	
	～住み続けたい、戻ってきたい、愛したい街の実現へ～」 --	25
3	資料編	
(1)	成果報告会アンケート結果 -----	53
(2)	龍ヶ崎市定住促進プロジェクト設置規程 -----	57
(3)	龍ヶ崎市定住促進プロジェクト設置要領 -----	59

# 1 龍ヶ崎市定住促進プロジェクトの概要について

## (1) 設置の目的

我が国においては、今後、急激な人口減少が予測されており、龍ヶ崎市においても、その波を避けることはできず、現に人口は、平成22年の8万334人をピークに、年々減少傾向となっている。そのような状況において、人が集まる魅力ある都市づくりを推進し、人口を呼び込み、人口を減らさないための定住促進に向けた施策の展開は、喫緊の課題である。

それら定住促進施策の立案と実行に当たっては、これからの龍ヶ崎市を担う若者世代が自ら考え、行動する、といった意識を高めていくとともに、若者世代の意見等を施策に反映させていくことが重要である。

そのため、龍ヶ崎市では、平成30年度より主幹級以下の若手職員の組織横断的な取組により、定住促進に関する必要な調査検討を行い、若者の視点から導き出された施策案を提言するため、本プロジェクトを設置したものである。

## (2) 構成メンバー

課 等 名	職 名	氏 名	備 考
財政課	副主幹	堀内 紗矢香	
企画課	主幹	染谷 優一	サブリーダー
シティセールス課	主幹	関口 裕城	サブリーダー
こども家庭課	主事	田中 佑典	
健康増進課	主幹	水本 奈津子	
保険年金課	主事	根本 祐樹	
市民窓口課	副主幹	建林 尋乃	
税務課	主幹	小島 徹	リーダー
交通防犯課	主幹	飯島 龍一	
農業政策課	主幹	福山 貴之	
都市計画課	主事	窪田 真也	
都市施設課	副主幹	野崎 浩太郎	
指導課	主幹	佐藤 美穂	

(3) スケジュール及び活動内容

日 程	内 容
平成 30 年 5 月 18 日	<p>第 1 回：事業内容・方向性の説明、定住促進に係る基礎的分析データ収集の役割分担</p> 
6 月 22 日	<p>第 2 回：収集した基礎データの共有</p>
7 月 27 日	<p>第 3 回：地域経済分析システム（RESAS）出前講座 【講師：経済産業省関東経済産業局総務企画部企画調査課 金子真裕 氏】</p> 
9 月 14 日	<p>第 4 回：収集した統計データの分析（特徴的な統計データの確定）、今後の方向性の共有</p>
10 月 5 日	<p>第 5 回：中間報告に向けた資料作成</p>
10 月 17 日	<p>副部長会議における中間報告</p>
10 月 19 日	<p>第 6 回：立地適正化計画説明 【講師：都市整備部都市計画課 沼崎智 主査・福元綾香 主事】 副部長会議での指摘事業の共有、今後の検討</p> 
11 月 5 日	<p>定例庁議における中間報告</p>
11 月 5 日 ～16 日	<p>市長とのランチミーティング、副市長・教育長・各部長への個別ヒアリング</p>
11 月 16 日	<p>第 7 回：定例庁議での指摘事項の共有</p>
11 月 19 日	<p>第 8 回：データから見るペルソナの方向性・施策案の検討</p>

日 程	内 容
12月上旬 ～中旬	街頭アンケート（たつのこやま等）・インターネットアンケート実施、 既存の定住促進施策の分析 
12月21日	第9回：施策案の検討
平成31年 1月7日	第10回：施策案の検討
1月16日	副部長会議における報告（成果報告会に向けた方向性の整理）
1月25日	市長とのランチミーティング
1月25日	第11回：成果報告会に向けた資料作成
1月28日 ・29日	成果報告会における報告リハーサル
2月4日	成果報告会における報告 
2月15日	第12回：今年度の総括、次年度へ向けた活動内容の検討

※ その他、茨城県主催の定住促進関連説明会、民間主催のシティプロモーションサミット等に参加

#### (4) 今年度の検討内容（方向性）及び施策提言案

今年度の龍ヶ崎市定住促進プロジェクトにおいては、まず、地域経済分析システム（RESAS）や国・県・民間などの統計情報、庁内で保有する統計情報などのうち、約80項目にわたる定住促進に資するデータを収集し、分析を加え、かつ、独自のアンケート調査や本市が行っている既存の定住促進施策の評価・分析など、龍ヶ崎市における現状の把握を行った。また、定住促進に関する先進事例や学術研究などの事例を収集し、分析を加えた。

それらの内容を踏まえ、次に掲げる6つの施策案を提言することとしたが、施策案提言に当たっては、分析などの結果を重視し、

「実現可能性」の高いものとする

「流入人口を増やす」のではなく「流出人口を減らす」こと  
に主眼を置いた。

なお、施策案提言の詳細については、報告書編（38ページから49ページまで）を参照のこと。

##### 【施策案提言の一覧】

- ・ 「龍ヶ崎をマチアルキ」「龍ヶ崎をススメ」
- ・ 「おススメの龍ヶ崎・仕事紹介」を庁内へ
- ・ 「月曜日の4歳の遊び場」
- ・ 「カネからモノへ住宅取得補助の拡充」
- ・ 「たつのご検定」で龍ヶ崎を学ぶ
- ・ 「たつのごワクワクワーク」（仮）

# 取り組み状況と今後の方向性

(中間報告)

龍ヶ崎市定住促進プロジェクト

龍ヶ崎市定住促進プロジェクトの概要	3
我が国における背景	4
本市における背景	5
参考とした主なデータ	6
龍ヶ崎市の現状   概要	7
龍ヶ崎市の現状と課題	8
・人口	
社会・自然増減/エリア別コーホート/年代別の転入転出数/転入・転出エリア	
・所得	1 2
・住環境	1 3
・子育て環境・教育	1 4
・商工業	1 5
・まちへの愛着	1 6
今後の方向性	1 7
参考用語	1 8

# 龍ヶ崎市定住促進プロジェクトの概要

## プロジェクトの概要

### 設置の目的 <龍ヶ崎市定住促進プロジェクト設置要領>

定住促進に係る先進事例等や基礎的情報（人口動態等）の調査分析及び既存の定住促進に係る事務事業の見直し等や新規事業の創出の検討を行い、その結果を庁議へ報告することで、定住促進に係る施策提言を行い、本市の定住促進を推進することを目的とする。また、併せて定住促進に係る庁内の連携強化を図ることを目的とする。

### 所掌事項

- ・人口動態等定住促進に係る基礎的情報の調査
- ・既存の定住促進に係る事務事業の見直し
- ・新たな定住促進に係る事務事業の創出の検討
- ・定住促進に係る先進事例等の調査
- ・定住促進に係る庁内の連絡調整

## これまでの会議開催概要

開催日	内容
5月18日	第1回： 事業内容・方向性の説明、定住促進に係る基礎的分析データ収集の役割分担
6月22日	第2回： 収集した基礎データの共有
7月27日	第3回： 地域経済分析システム（RESAS）出前講座【講師：経済産業省関東経済産業局】
9月14日	第4回： 収集した統計データの分析（特徴的な統計データの確定）、今後の方向性の共有
10月5日	第5回： 中間報告に向けた資料作成 → 10月17日 副部長会議で中間報告
10月19日	第6回： 副部長会議の共有、今後の検討

その他、データ収集後の分析作業などの個別検討会の実施、県主催の定住関連説明会や民間主催のシティプロモーションサミットなどに参加

## 構成メンバー（●：リーダー ▲：サブリーダー）

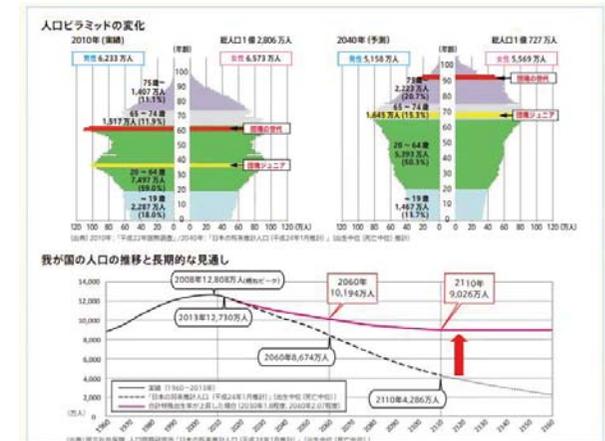
課等名	職	氏名
財政課	副主幹	堀内 紗矢香
企画課	主幹	染谷 優一(▲)
シティセールス課	主幹	関口 裕城(▲)
こども家庭課	主事	田中 佑典
市民窓口課	副主幹	建林 尋乃
税務課	主幹	小島 徹(●)
交通防犯課	主幹	飯島 龍一
農業政策課	主幹	福山 貴之
都市計画課	主事	窪田 真也
都市施設課	副主幹	野崎 浩太郎
指導課	主幹	佐藤 美穂
保険年金課	主事	根本 祐樹
健康増進課	主幹	水本 奈津子

# 我が国における背景

## 背景 1

### 「人口減少時代」の到来

- ✓ 合計特殊出生率（以下「出生率」という）は、1970年代後半以降急速に低下
- ✓ 人口規模が長期的に維持される水準を下回る状態が、現在まで継続中。
- ✓ 一方、少子化が進行も、日本の総人口は長らく増加を続けた。  
(出生率の低下によるマイナスを埋めていた要因)
  - 戦後の第一・第二次ベビーブーム世代という大きな人口の塊があったため
  - 平均寿命が伸び、死亡数の増加が抑制されたことにある。
- ✓ 上記時期の人口貯金がなくなった2008年を境に、我が国の総人口は減少期に突入。
- ✓ 今後若年人口の減少と老年人口の増加を伴いながら加速度的に進行
- ✓ 2040年代には毎年100万人程度の減少スピードになると推測されている。

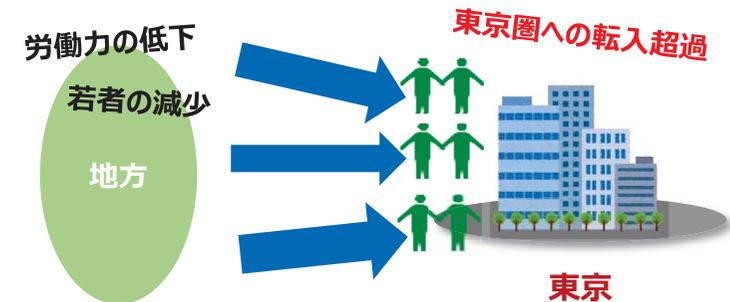


■ 出典：まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」

## 背景 2

### 東京圏への人口の一極集中と日本全体の人口減少の関係性

- ✓ 東京圏への人口が一極集中することで「過密の東京圏」と「人が極端に減った地方」が併存  
結果：その状態のまま人口減少が進行していく。
- ✓ 厳しい住宅事情や子育て環境等から、地方に比べより低出生率の東京圏に若い世代集中  
結果：日本全体としての人口減少に結びつく
- ✓ 地方の若者が進学や就職で東京に流入することで地方の労働力が著しく欠けることに
- ✓ 東京圏年間転入超過は、歯止めがかからない（2013年:10万人・2017年:12万人）



## 背景 3

### 地方創生がもたらす日本社会の姿

- ✓ 人口減少による地方経済の疲弊を食い止め、立て直すということから始まったのが地方創生
- ✓ 地方創生が目指す姿は・・・
  - 地域に住む人々が、自らの地域の未来に希望を持ち、個性豊かで潤いのある生活を送ることができる地域社会を形成すること。
- ✓ 地方が独自性を活かし、潜在力を引き出す多様な地域社会を創出することが基本。
- ✓ 2014年10月：国における総合戦略が策定：
- ✓ 地方版総合戦略の策定→2015年12月「龍ヶ崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定
- ✓ 2015～2019年の5年間を計画期間として様々な取組を展開中。

人口問題に対する基本認識 「人口減少時代」の到来

今後の基本的視点

- 3つの基本的視点 ①「東京一極集中」の是正 ②若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現 ③地域の特性に即した地域課題の解決
- 国民の希望の実現に全力を注ぐことが重要

目指すべき将来の方向 将来にわたって「活力ある日本社会」を維持する

- 若い世代の希望が実現すると、出生率は1.8程度に向上する。
- 人口減少に歯止めがかかると、2060年に1億人程度の人口が確保される。
- 人口の安定化とともに「生産性の向上」が図られると、2050年代に実質GDP成長率は、1.5～2%程度に維持される。

地方創生がもたらす日本社会の姿

◎地方創生が目指す方向

- 自らの地域資源を活用し、多様な地域社会の形成を目指す。
- 地方創生が実現すれば、地方が先行して若返る。
- 外部との積極的なつながりにより、新たな視点から活性化を図る。
- 東京圏は、世界に開かれた「国際都市」への発展を目指す。

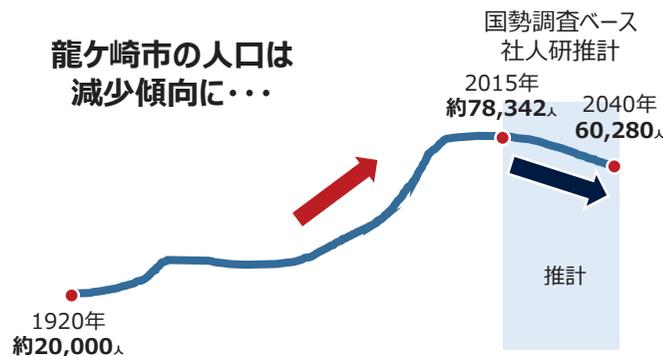
地方創生は、日本の創生であり、地方と東京圏がそれぞれの強みを活かし、日本全体を引っ張っていく

■ 出典：まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」

# 本市における背景

## 背景1 平成23年以降、本市にも人口減少時代が到来

- ✓ 本市の人口はニュータウン開発により、平成7年には全国2位の伸び率となった。
- ✓ 以降、順調に増加してきたが、平成22年の80,334人をピークに減少傾向。
- ✓ 近年は出生率の低下、死亡数の増加、転出超過などの傾向。
- ✓ 推計よりも早く人口減少が進行（2018.10-77,577人 予測2025年-72,859人）
- ✓ 人口推計値では、平成52年（2040年）には60,280人になると予測。
- ✓ 転出超過のなかで、流入策だけではなく、特に人口の流出防止策が急務な時代に



## 背景2 自慢できるふるさとへ「第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」の実行

- ✓ 昭和48年「龍ヶ崎市総合計画」を策定以降「龍ヶ崎市第5次総合計画」まで計画を定め、計画的にまちづくりを進めてきた。
- ✓ 平成23年地方自治法改正により、総合計画策定義務が廃止。平成23年12月に「ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」を策定（計画期間：平成24年～28年）
- ✓ 平成29年には、今後5年間の計画「第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」を策定。
- ✓ 「人が元気 まちも元気 自慢したくなるふるさと 龍ヶ崎」を目指すべきまちの姿としている。
- ✓ その中で、5つのまちづくりの方向性を示している。
  - ・若者・子育て世代が安心して結婚・子育てできる環境を創出する
  - ・住みよさの向上など、住んでみたいと感じるまちづくりを推進する
  - ・少子高齢型社会に対応した地域活力を創造する
  - ・ふるさと龍ヶ崎の現在を担い、未来を拓く人づくりを推進する
  - ・将来につながる基盤づくりを推進する

まちづくりの方向性を示す  
「第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」  
**人が元気 まちも元気**  
**自慢したくなるふるさと 龍ヶ崎**



## 背景3 実は“住めば都”？認知度は低い、住民の定住・推奨意向は高め？

- ✓ 本市独自調査によると、本市の認知度は近隣市と比較し、極めて低い状況にある。
- ✓ 「第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」でも認知度向上、イメージアップの施策を展開中
- ✓ 子育て世代対象調査では、8割以上が住み続けたいと回答。
- ✓ さらに、約7割が勧めたいと回答し、特に未就学児が長子の場合、より積極的に推奨傾向

市外の人



市内の子育て世代



# 参考とした主なデータ

以下のデータをメンバーで収集し、報告を行い、必要なデータのピックアップを行った。

収集方法：市所有データ、国勢調査、RESAS※（地域経済分析システム）、外部提供データなど

※RESASとは…地方自治体の様々な取り組みを情報面から支援するために、まち・ひと・しごと創生本部事務局が提供する、産業構造や人口動態、人の流れなどの官民ビッグデータを集約し、可視化するシステム

10

1 人口	転出入数／転出先市区町村／転出入の理由／転出入の年齢／行政区別人口／世帯構成／小中学生がいる世帯数／転入元市町村	7 住宅	空家の件数／空家（空地）を利用したい人の数／利用できる空家の数／持ち家の取得時年齢／居住の実態（借家・持ち家の割合）／エリアごとの土地価格相場／エリアごとの家賃相場
2 学校	流大生の就職先／流大生の住登状況／流大生の出身地／流大生の卒業後の居住地／市内高校への通学者割合（市内・市外）／市外高校への通学者数／小中学生の意識調査(シ`ックアップライト等)／奨学金の利用者数／学力テストの位置（順位）	8 仕事	仕事帰りの寄り道先／通勤距離、時間、手段／市内企業数(従業員の市民の割合)／市内への通勤者数、年齢、業種／市民の勤務先（市内・市外）／市外の通勤者数／市外企業へ就職した学生数／市外企業へ就職希望の学生数／市民の職業／社会人の数（職業別）／女性の就業率
3 所得	所得の地域間ギャップ／正社員・契約社員か（雇用形態）／貸家居住者の所得／子育て世代の所得／新築の所有者所得状況／固定資産税・市民税の推移	9 施設	駅の利用者数／駅の利用割合／公共施設の利用者データ(年齢、性別、職業)／市内の病院数／市内の病院の受診者数／娯楽施設の利用先／公園数／公園の利用者数／公園の遊具数
4 観光	農産物生産量／市のイベントの入込客数／イベントの参加理由／交流人口数	10 その他	ハザードマップ／地質データ／飲食店マップ／ふるさと納税の活用／愛着度（新成人など）／車の所有台数／健康状態（元気な人の数）／健康状態（医療費など）／犯罪件数／高齢化の状況／買い物先／コミュニティバス利用者数／SNSの利用年代
5 子育て	子育て世代の推奨意向／合計特殊出生率／保育園・幼稚園利用状況／乳幼児・妊産婦の助成制度／子育て支援制度の満足度／学童保育ルームの利用状況と理由		
6 イメージ	認知度・魅力／メディアの件数／子育て世代の市のイメージ／住んでよかったと思う理由／職員の龍ヶ崎市推奨意向		

## 人口

- ✓ 人口はH22年をピークに減少傾向
- ✓ 大学卒業年代の社会減の幅が大きい
- ✓ 社会減は50歳代まで続く
- ✓ 馴染地区の子どもの減少幅が大きい
- ✓ 北竜台は就職時期で社会減に転じる
- ✓ 龍ヶ岡は子育て世代が増加傾向
- ✓ 稲敷・利根から転入超過
- ✓ 千葉・つくばへの転出が多い
- ✓ 0～4歳の子どもは転入超過傾向  
※家族も転入してきている可能性が非常に高い
- ✓ 近隣エリア間の転入・転出が多い
- ✓ TX沿線へは転出超過になっている

## 所得

- ✓ 雇用者所得が他市よりも低い
- ✓ 市外で稼いだお金が市内で消費されず、市外に流出
- ✓ 大宮・長戸(農業)と龍ヶ崎(商業)の所得が変わらない
- ✓ 北竜台・龍ヶ岡地区の所得が高い

## 住環境

- ✓ 他市に比べて広い部屋を借りられる
- ✓ 住宅価格は都内から離れると安くなる傾向(※駅徒歩圏)
- ✓ 建物面積には影響していない
- ✓ 佐貫駅近くの建売物件が少ない(※検索に出てこない)
- ✓ 中古物件も住宅取得補助対象だが、資料不足で対象外ケースあり

## 子育て環境・教育

- ✓ 出生者数は減っているが、出生率はほぼ横ばい
- ✓ 出生率が県・全国と比較しても低い
- ✓ 離婚率が高いので出生率が下がっている可能性あり
- ✓ 2歳未満の子どもがいても離婚傾向あり
- ✓ 子育て世代の約7割は環境を推奨

## 商工業

- ✓ 様々な産業がまんべんなく存在している
- ✓ 通勤時間が1時間以内の人が多い
- ✓ 通勤での流出者数の減少、流入者数の増加傾向
- ✓ 都内を通勤先とする市民は多いものの減少傾向
- ✓ 近隣エリアからの流入者数増加傾向

## まちへの愛着

- 【全国・県との比較】
- ✓ 地域での学習機会は大差ない
  - ✓ 地域の問題や出来事に関心が低い
  - ✓ 地域でボランティアに参加する子どもたちが多い
- 【市独自】
- ✓ シビックプライドとシティズンシップが誤用されている
  - ✓ 中学生になると、まちへの関心度がより低くなる傾向

# 龍ヶ崎市の現状と課題 | 人口（社会・自然増減）

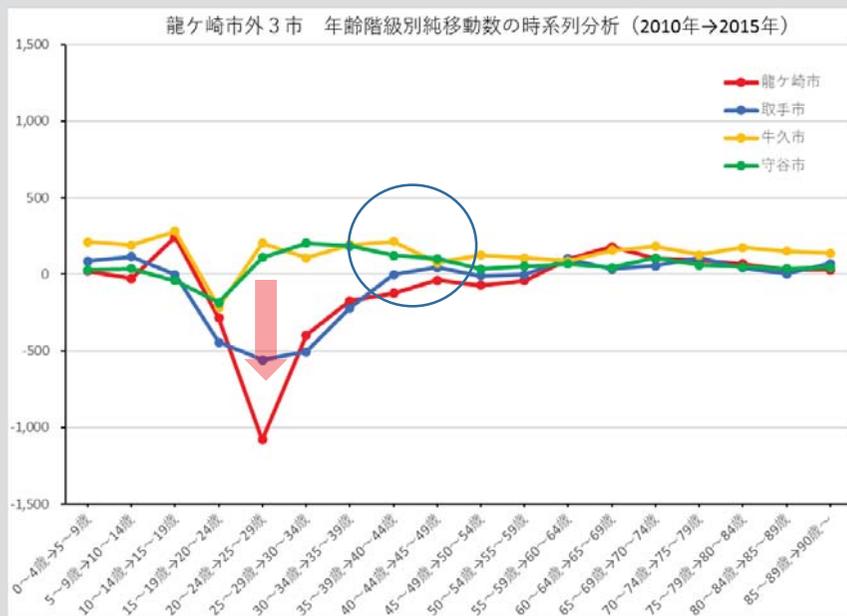
## 現状

- ✓ 人口はH22年をピークに減少傾向(80,334人|H22)
- ✓ H30.10.1現在で77,577人
- ✓ 2060年の目標人口は65,521人（人口ビジョン）
- ✓ 大学卒業年代の社会減の幅が大きい
- ✓ 社会減は50歳代まで続く
- ✓ 4歳までの子どもの人口は増えている

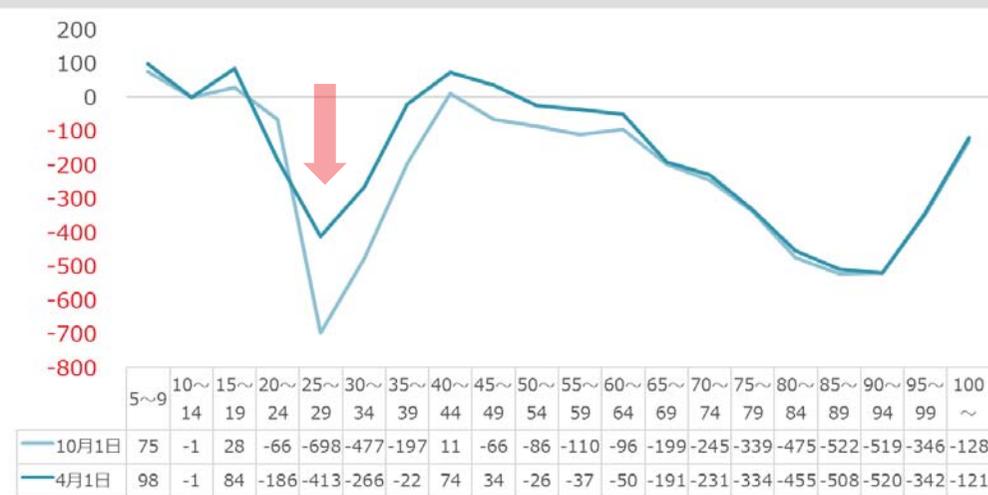
## 課題

- ✓ 近隣市と比較すると20～40代の社会増が鈍い
  - ※ 30代程度の職員ヒアで同級生が龍ヶ崎にいないとの声もあり
- ✓ 流经大入学者が卒業後に転出している可能性がある
- ✓ 近隣市と比較すると、下がり幅が大きい
  - ※ 流出防止策が必要な可能性あり

■ 近隣市との比較（転入・転出の差し引き：社会増減）



■ H24→H29の本市年齢別人口コーホート（人口の差し引き：自然+社会増減）



# 龍ヶ崎市の現状と課題 | 人口（エリア別コーホート）

## 現状

- ✓ 特に馴染地区の子ども・子育て世代の減少幅が大きい。
- ✓ 長戸・大宮などは安定している
- ✓ 北竜台は就職するタイミングで社会減に転じる
- ✓ 龍ヶ岡は子育て世代 & 子どもが増加中の傾向

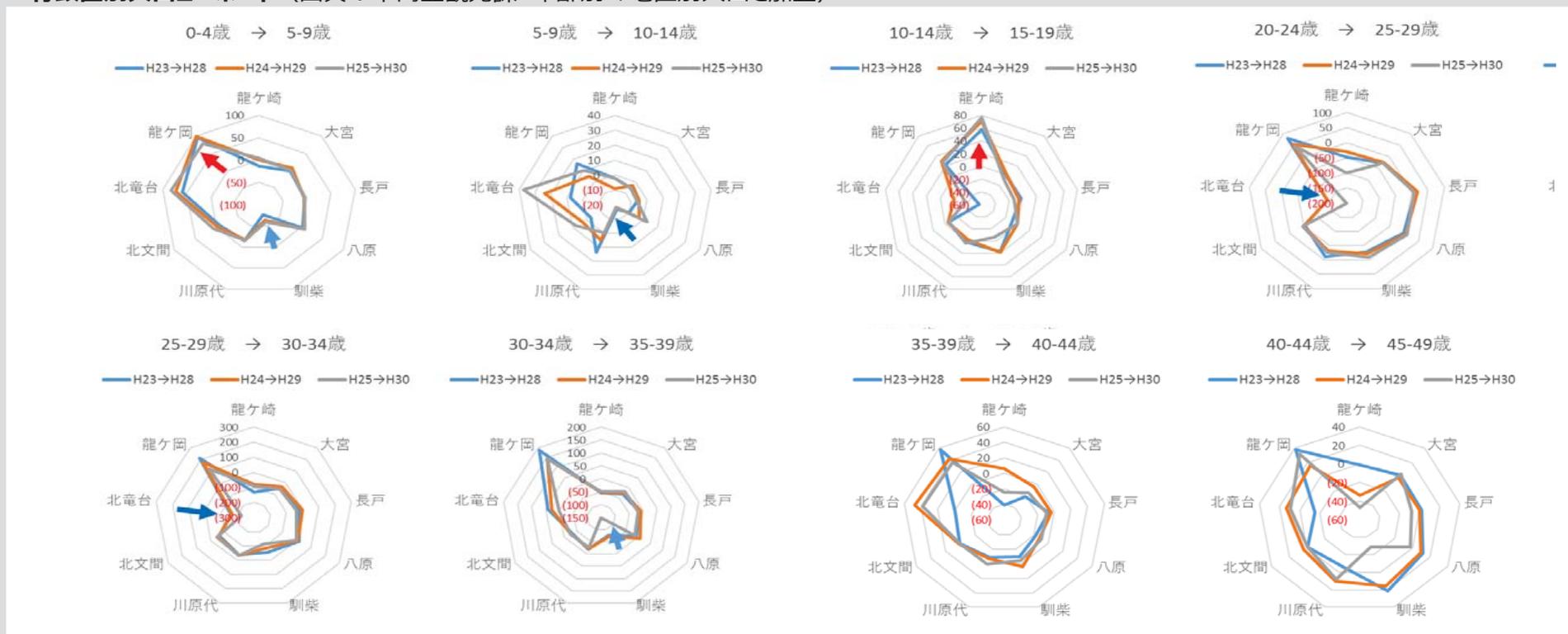
### 前提条件

- ・下記、レーダーチャートはコーホート分析によるもの
- ・地区別、年齢別人口により5年間の同世代の人口変移を算出したもの  
※H23の0～4歳は、H28の5～9歳になるため、差引を算出

## 課題

- ✓ 馴染地区では子育て世代が定着しにくい可能性があり  
※小学校入学前に転居（流出）してしまう  
※佐貫駅周辺のバリアフリーなどがあまりされていない  
※保健センターなどへのアクセスに難がある(車なしの人)
- ✓ 佐貫駅周辺に子育て世代が家を建てる土地がない
- ✓ 北竜台で育った子が市外へ流出している

### ■ 行政区別人口コーホート（出典：市商工観光課 年齢別・「地区別人口を加工」）



# 龍ヶ崎市の現状と課題 | 人口（年代別の転入転出数）

## 現状

- ✓ 稲敷・利根から転入超過
- ✓ 千葉・つくば・取手・牛久への転出する傾向
- ✓ 子どもは4歳（小学校入学前）までの転入・転出が多い
- ✓ 0～4歳の子どもは増加傾向（再掲）  
※家族も転入してきている可能性が非常に高い  
※P.8コーホート分析参照
- ✓ 近隣エリア間の転入・転出が多い
- ✓ TX沿線へは転出超過になっている

## 課題

- ✓ 鉄道の利便性が高いところにはかなわない
- ✓ 県外からの流入は流経大に頼っている傾向

0～4歳の移動が多い傾向

14

■ 年代別転入者数

年齢	男	女	合計
0～4	56	62	118
5～9	21	16	37
10～14	16	10	26
15～19	34	31	65
20～24	210	147	357
25～29	213	148	361
30～34	142	85	227
35～39	104	64	168
40～44	63	43	106
45～49	51	36	87
50～54	39	17	56
55～59	30	11	41
60～64	15	15	30
65～69	22	17	39
70～74	18	14	32
75～79	13	8	21
80～84	3	14	17
85～89	5	5	10
90～94	0	13	13
95～101	0	3	3
	1055	759	1814

年齢	男	女	合計
0	15	16	31
1	19	15	34
2	7	18	25
3	8	9	17
4	7	4	11
5	5	2	7
6	5	2	7
7	5	3	8
8	1	5	6
9	5	4	9
10	5	2	7
11	2	1	3
12	3	3	6
13	2	1	3
14	4	3	7
15	4	4	8

■ 年代別転出者数

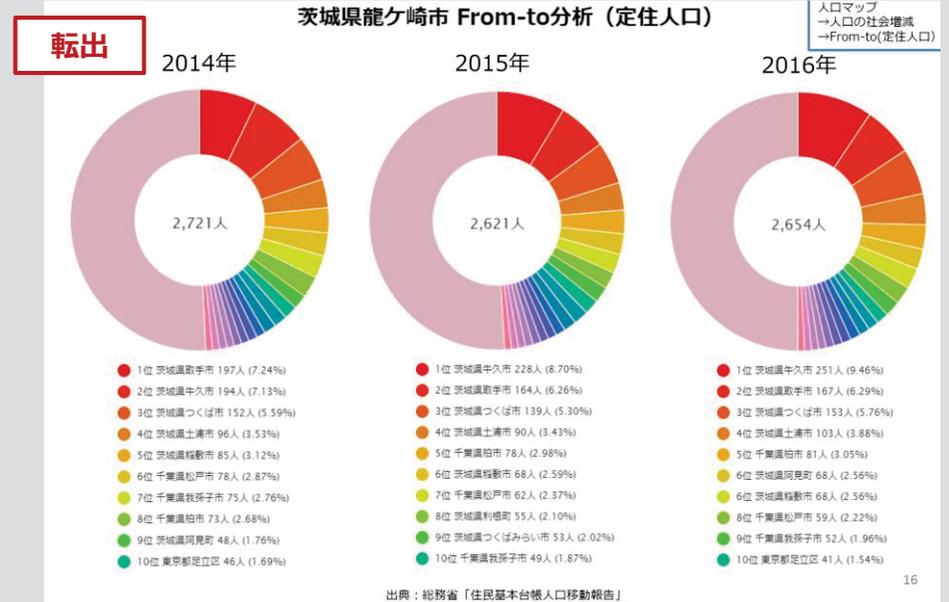
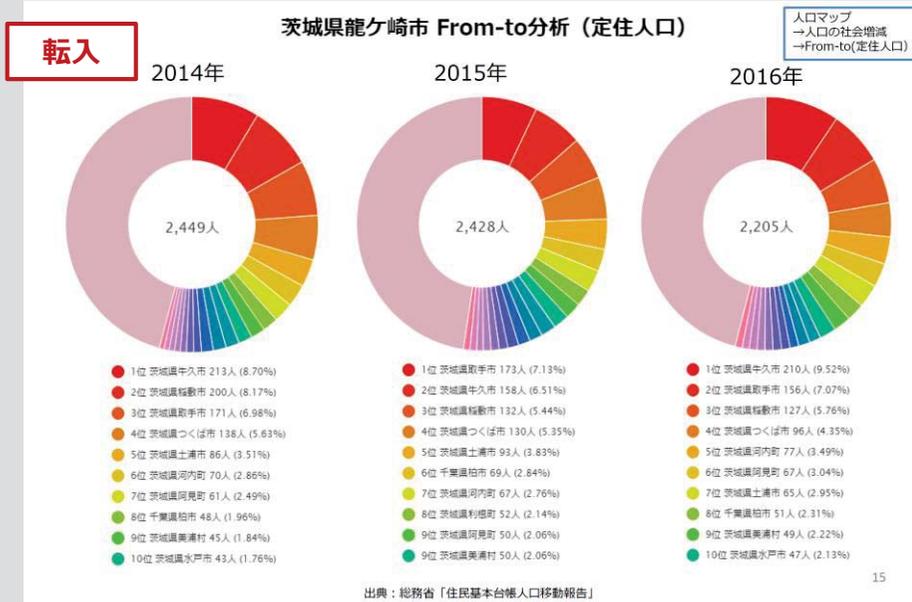
年齢	男	女	合計
0～4	62	56	118
5～9	19	17	36
10～14	10	11	21
15～19	53	30	83
20～24	201	133	334
25～29	274	190	464
30～34	171	125	296
35～39	86	82	168
40～44	70	41	111
45～49	64	36	100
50～54	23	23	46
55～59	28	15	43
60～64	22	14	36
65～69	21	15	36
70～74	12	13	25
75～79	9	14	23
80～84	5	6	11
85～89	2	7	9
90～94	3	5	8
	1135	833	1968

年齢	男	女	合計
0	19	9	28
1	11	8	19
2	14	21	35
3	15	10	25
4	3	8	11
5	5	4	9
6	3	3	6
7	7	7	14
8	1	2	3
9	3	1	4
10		5	5
11	3	1	4
12	2	2	4
13	2	2	4
14	3	1	4
15	1	6	7

（平成29年4月から11月までの転入転出データ）

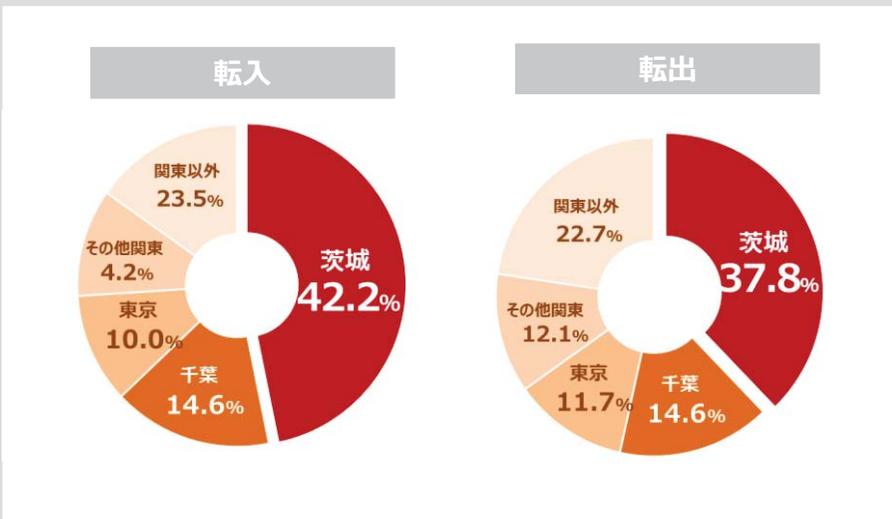
# 龍ヶ崎市の現状と課題 | 人口（転入・転出エリア）

## ■ 転出入先（出典：RESAS人口マップ 総務省住民基本台帳人口移動報告）



15

## ■ 転出入先（出典：住民基本台帳ベース 市シティセールス課調査:H29.4~11）



## エリア別転出超過数

エリア	転入者数	転出者数	転出超過数
北海道・東北	64	44	20
関東	1388	1522	-134
茨城	766	744	22
千葉	264	308	-44
東京	181	231	-50
埼玉	69	98	-29
神奈川	51	90	-39
その他	57	51	6
東海	33	48	-15
北陸	27	37	-10
近畿	11	17	-6
中国	6	6	0
四国	9	12	-3
九州・沖縄	36	28	8
海外	76	161	-85

市町村名	転入者数	転出者数	転出超過数
常磐線 土浦	56	70	-14
常磐線 牛久	98	122	-24
常磐線 取手	112	121	-9
TX つば	72	101	-29
TX つばみらい	19	20	-1
TX 守谷	8	18	-10
なし 阿見	40	56	-16
なし 美浦	11	28	-17
なし 稲敷	85	37	48
なし 河内	30	25	5
なし 利根	52	21	31
常磐線 我孫子	32	34	-2
常 TX 柏	32	63	-31
常磐線 松戸	34	47	-13
成田線 成田	23	23	0

## 現状

- ✓ 雇用者所得が他市よりも低い
- ✓ 市外で稼いだお金が市内で消費されず、市外に流出
- ✓ 大宮・長戸(農業)と龍ヶ崎(商業)の所得が変わらない
- ✓ 北竜台・龍ヶ岡地区の所得が高い

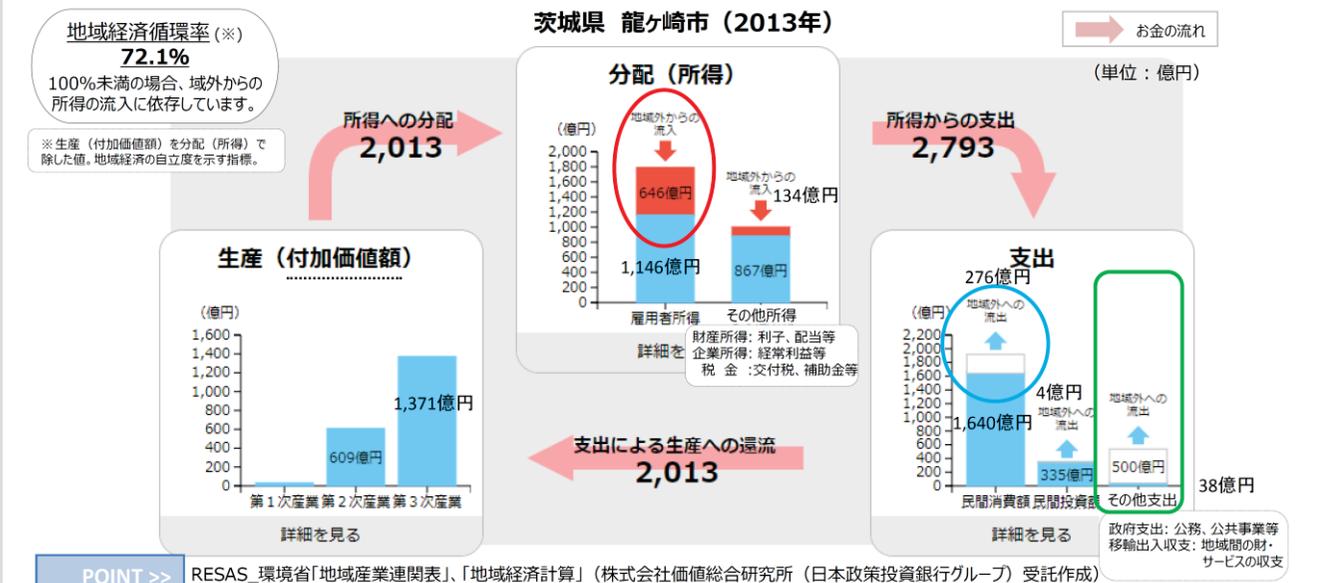
## 課題

- ✓ ベットタウン化してしまっている
- ✓ 商店街として機能していない可能性がある

### ■ 地域経済循環マップ

(出典：RESAS 環境省「地域産業連関表」「地域経済計算」)

➤ 地域内のお金の流れを「生産」、「分配」、「支出」の三段階で表示し、各段階におけるお金の流出・流入状況を把握できる



- ◆ 生産：第3次産業(商業、サービス業など)を中心に所得を稼いでいる。
- ◆ 分配：雇用者所得・その他所得の流入が起きており、ベットタウンの傾向が見られる。
- ◆ 支出：域外での買い物や観光消費が多いこと(民間消費の流出)、域外へ設備投資されていること(民間投資の流出)、域外の財・サービスが購入されていること(その他支出の流出)が見られる。

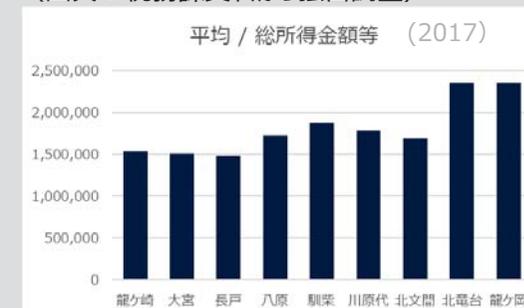
### ■ 雇用者所得 ※近隣市との比較

(出典：RESAS 環境省「地域産業連関表」「地域経済計算」)



### ■ 総所得金額 ※全年代での所得金額のため、低めに算出

(出典：税務課資料から独自調査)



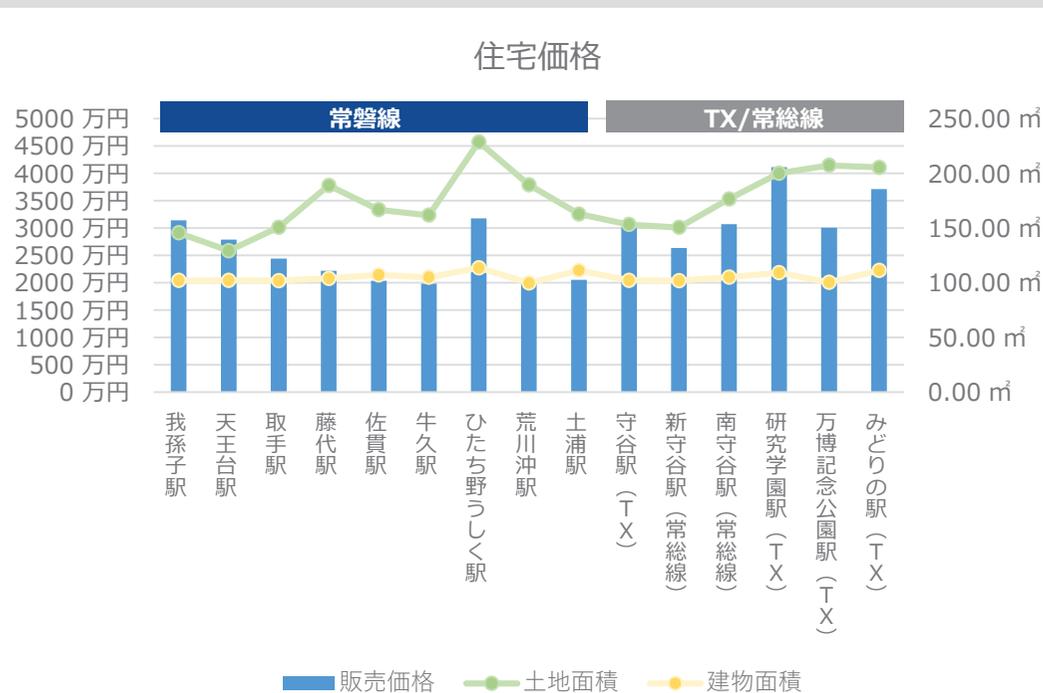
## 現状

- ✓ 他市に比べて広い部屋を借りられる  
※ つくば: 1Kが龍ヶ崎だと3LDKが借りられる
- ✓ 住宅価格は都内から離れると安くなる傾向 (※ 駅徒歩圏)
- ✓ 建物面積には影響していない
- ✓ 佐貫駅近くの建売物件が少ない (※ 検索に出てこない)
- ✓ 中古物件も住宅取得補助対象だが、資料不足で対象外ケースあり

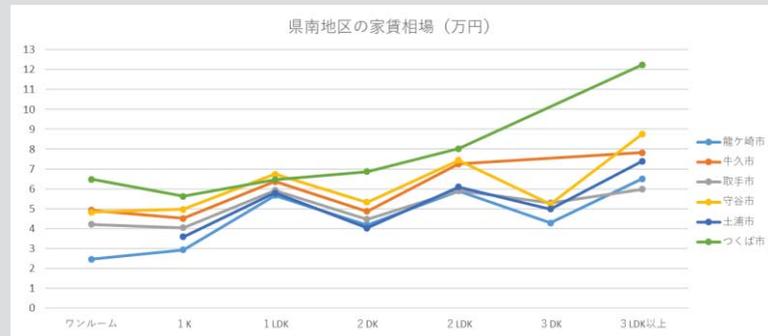
## 課題

- ✓ 駅近物件がない
- ✓ ネットでヒットしないので、選択肢にならない可能性がある
- ✓ 中古物件で住宅取得補助対象にならないケースが多い  
(※ 年10軒程度はある。建築確認の書類不足のため。既存建築物の検査済証は新たに取得できない)

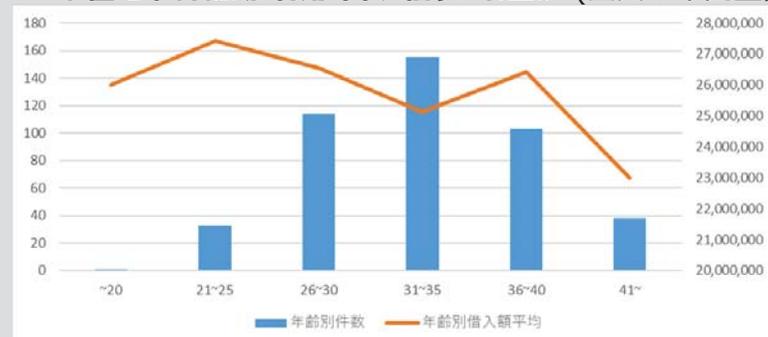
■ 住宅価格近隣市比較 (出典: SUUMO掲載情報 H30.9)



■ 家賃相場 近隣市・部屋サイズ比 (出典: LIFUL掲載情報H30.9)



■ 市住宅取得補助 利用年代・借入れ金額 (出典: 市調査)



## 現状

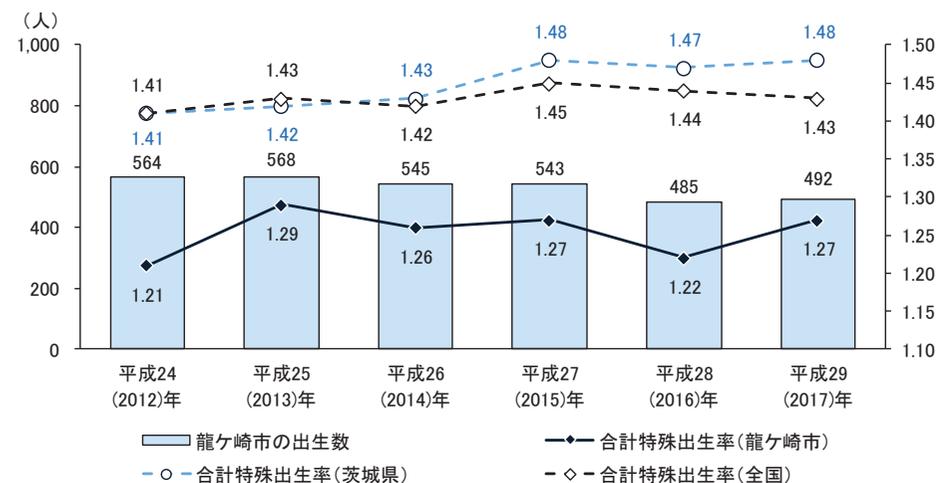
- ✓ 出生者数は減っているが、出生率はほぼ横ばい
- ✓ 龍ヶ崎市の出生は県・全国と比較しても低い
- ✓ 2歳未満の子どもがいても離婚している傾向がある  
※窓口での対応している経験として
- ✓ 住んでいる人の約7割は推奨したいと答えている

## 課題

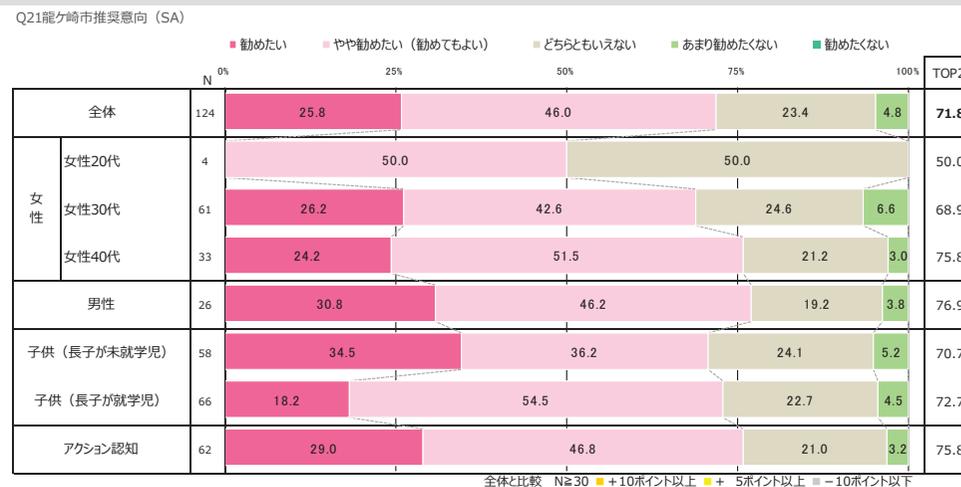
- ✓ 車非保有者の子育て世代が佐貫駅周辺から保健センターなどに来るのが不便
- ✓ 住めば都になっているが、まだまだ知られていない(P.13関連)

18

■ 出生率/出生者数 (出典:こども家庭課)



■ 子育て環境を薦めたい人 (出典:シティセールス課独自調査)



## 現状

- ✓ 様々な産業がまんべんなく存在している
- ✓ 通勤時間が1時間以内の人が多い
- ✓ 通勤での流出者数の減少、流入者数の増加傾向
- ✓ 都内を通勤先とする市民は多いものの減少傾向
- ✓ 近隣エリアからの流入者数増加傾向

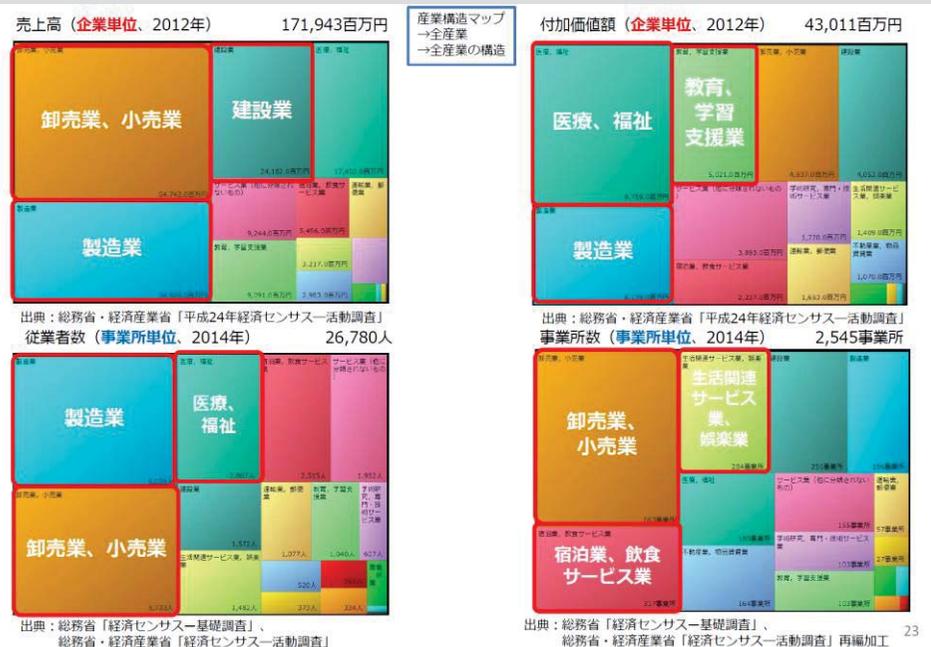
## 課題

- ✓ 基幹産業となりえるものがない
- ✓ 大企業がなく、中小企業が多い
- ✓ 市内へ通勤している人に住宅環境をPRできていない
- ✓ 都内通勤者のベッタウンイメージからの脱却
- ✓ 正規雇用としての働き口が少ない  
※企業誘致も必要だが、創業支援の強化も…

19

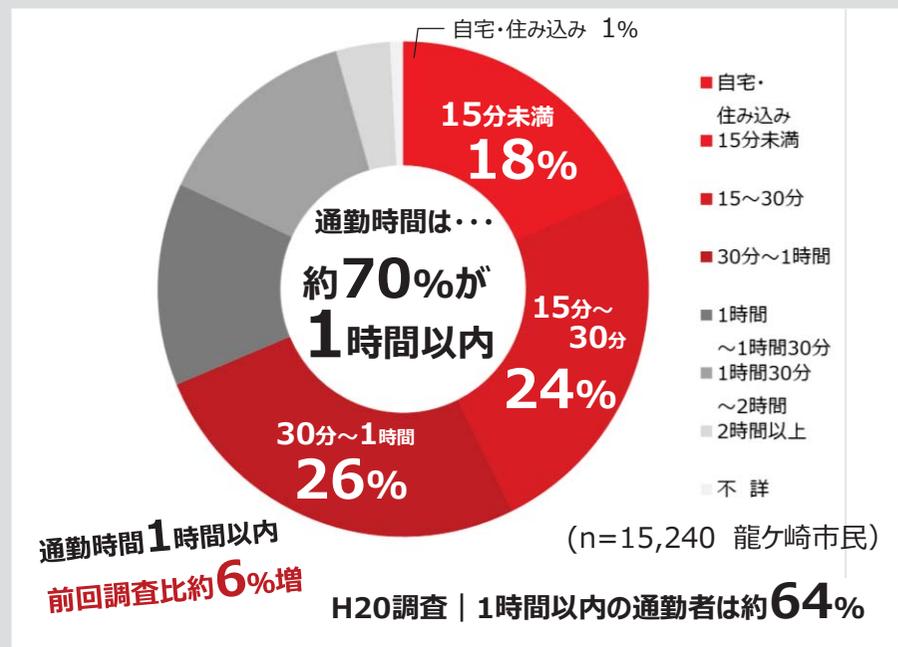
### ■ 産業構造マップ

(出典：RESAS 総務省・経産省「経済センサス」等)



### ■ 通勤時間 (家計を支える主たる所得者)

(出典：「住宅・土地統計調査」平成25年)



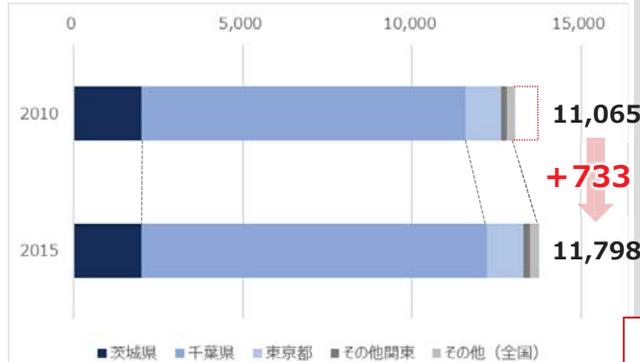
# 龍ヶ崎市の現状と課題 | 商工業（通勤-流入・流出先）

## ■ 通勤者の流入・流出先（出典：RESAS 総務省「国勢調査」等）

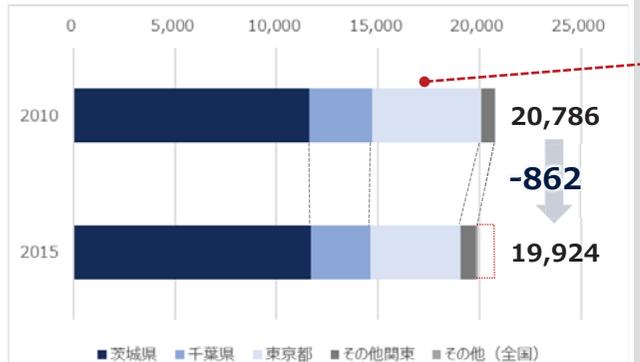
### 流入・流出者総数

- ✓ 流出減少、流入増加の傾向
- ✓ 都内への流出者の減少
- ✓ 千葉からの流入増加傾向

#### ■ 流入



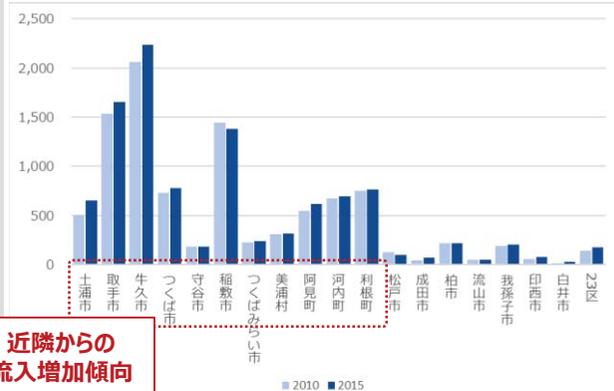
#### ■ 流出



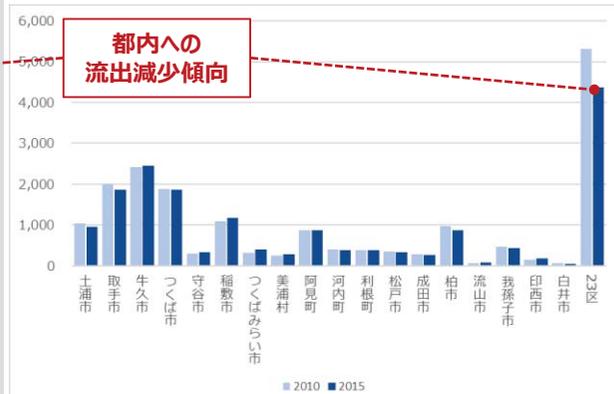
### 主な自治体別流入・流出数

- ✓ 23区内への流出者の大幅減少
- ✓ 近隣からの流入増加傾向、流出は横ばい
- ✓ 成田・印西・我孫子からの流入が微増

#### ■ 流入



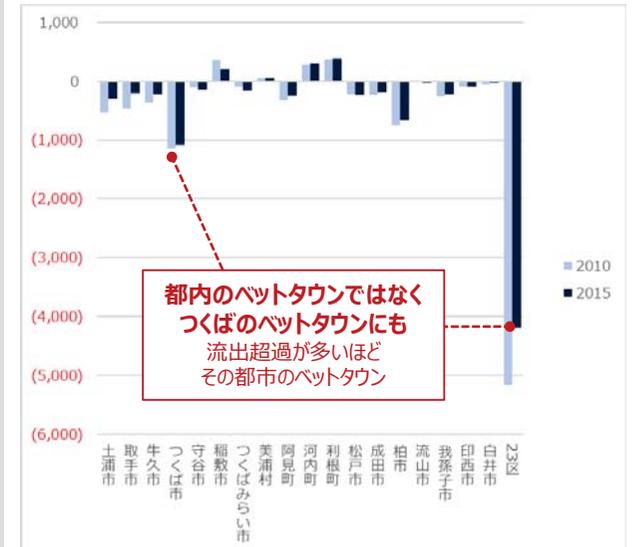
#### ■ 流出



### 主な自治体別流入・流出超過数

- ✓ 都内へ流出超過であるが超過数は減少  
※ 佐貫駅利用者からも通勤者の減少
- ✓ つくばのベッドタウン化の傾向がみられる
- ✓ 河内・利根からの流入超過傾向

#### ■ 流入超過数（流入数-流出数）



### ■ JR常磐線佐貫駅乗車数(JR東日本)

	定期外	定期	合計
H24	3,254	10,746	14,001
H29	3,426	9,569	12,995

## 現状

### 【全国・県との比較】

- ✓ 地域での学習機会は大差ない
- ✓ 地域の問題や出来事に関心が低い
- ✓ 地域でボランティアに参加する子どもたちが多い

### 【市独自】

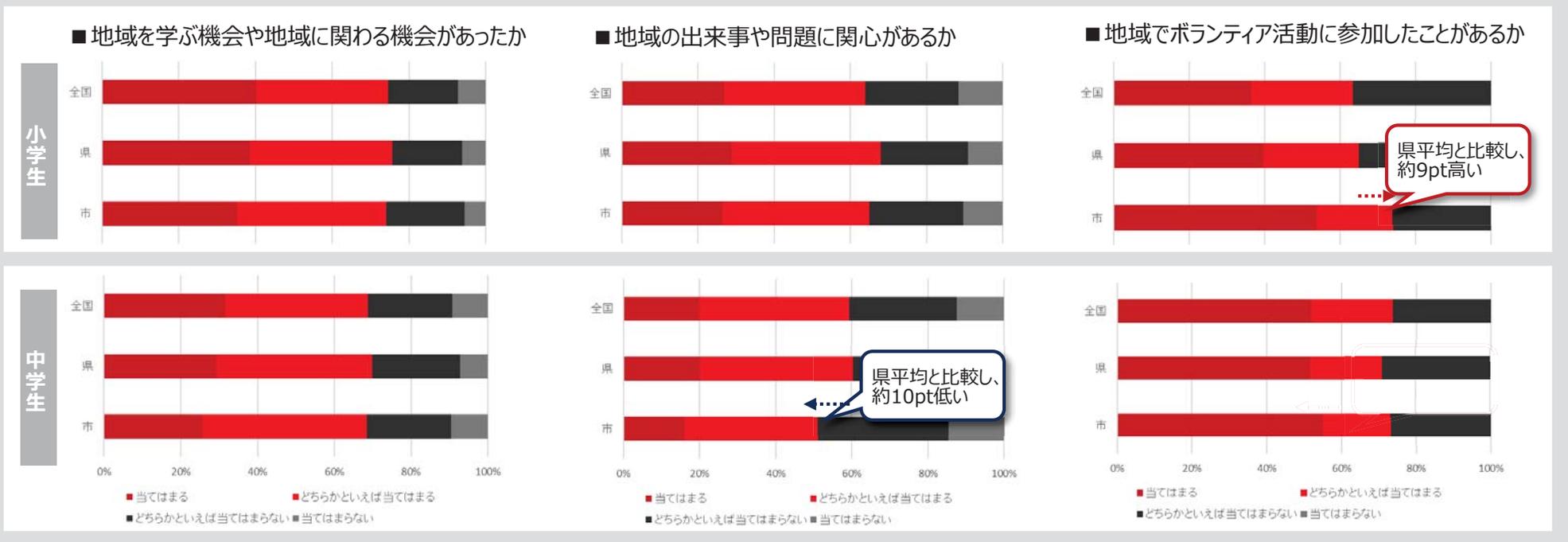
- ✓ シビックプライドとシティズンシップが誤用されている
- ✓ 中学生になると数値が減少傾向になっている

## 課題

- ✓ 学習機会は全国、県と比較しても大差ないが、関心があるの数値で差が出ている
- ✓ 地域に興味がある子どもが少ない
- ✓ ボランティアへの参加が地域への関心につながっていない
- ✓ 中学生になると、まちへの関心度がより低くなる傾向

21

### ■ まちへの愛着やかかわりなどのデータ (出典：文部科学省調査 平成30年度全国学力・学習状況調査)



## 施策方向性の設定

- ✓ 龍ヶ崎をより知るきっかけづくり
- ✓ 市外からの流入 **＜人口の流出防止＞**
  - \*まったく知らない人を転入させるのはハードルが高い
  - \*在住市民の転出を抑制させる（特に小学校入学前の子育て世代）
  - \*都心から人口流入は期待できない
- ✓ シビックプライドの醸成

## ターゲットの設定

- ✓ ペルソナ※1を立てる
  - \*具体的な生活をイメージ（仮説）
  - \*データに基づくもので設定する
- ✓ 子育て世代を中心にする
  - \*大人に限らない、親子を想定

※1ペルソナとは・・・

「ペルソナ」と呼ばれる架空の氏名・年齢・職業・年収・生活価値観などで作られたユーザーを設定し、それが最も満足するように、商品やサービスを設計するマーケティング手法のこと。

## 今後のPTの活動

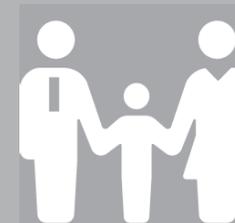
- ✓ 他市町村先進事例の調査
- ✓ 具体的施策の検討
- ✓ 子育て世代向けの対面調査  
（さんさん館、保健センター、庁内窓口などを想定）

### ＜施策イメージ＞

- ・起業支援策（特に子育て世代のママ）
- ・子育て世代が佐貫駅周辺を利用しやすい環境整備
- ・住宅取得補助金の拡充
- ・子どもたちが龍ヶ崎を体験できる仕掛けづくり

### ■ 主なスケジュール

- ・11/5 定例庁議（中間）
- ・11～12月 具体的な提案
- ・1～2月 副部長会議・庁議・成果報告会



（出典：電通マクロミルサイト）

## シビックプライド

「シビックプライド」とは「市民としての誇り」と訳される。イギリスでも日本でも、都市環境や建築などの分野から発生した概念であって、それが地域参画、コミュニティの感覚へとつながっていくものである。

参考：伊藤香織『都市環境はいかにシビックプライドを高めるか』

## シティズンシップ

「シティズンシップ」とは「市民性」と訳される。教育との関連でみられ、市民性（参政権、社会への参画への意識、多様性・多文化の尊重、相互扶助意識、ボランティア精神など、市民生活に必要な知識・スキルの習得や意識）の醸成を図るのが目的である。

市民として広く必要なものとしての視点であり、地域に対する愛着や誇りという視点はない。

参考：藤原孝章『日本におけるシティズンシップ教育の可能性』

## シティプロモーション

シティプロモーションは、「地域を持続的に発展させるために、地域の魅力を創出、地域内外に効果的に訴求し、それにより、人材・物財・資金・情報等の資源を地域内部で活用可能としていくこと」である。

本市では、上記の定義をもとに選んでもらいやすいようにまちのイメージを作ること/市民の方々に対し、本市への愛着や誇りなど、いわゆるシビックプライドを醸成しようとする事/市外において認知度向上やイメージアップを図ることと定義している。

参考：東海大学文学部広報メディア学科 河井教授

## PR (Public Relations)

PR（パブリックリレーションズ：Public Relations）は20世紀初頭からアメリカで発展した、**組織とその組織を取り巻く人間（個人・集団・社会）との望ましい関係をつくり出すための考え方および行動のあり方**。

現代に置き換えると、「これから売りたい商品を、公共性、ニュース性のある場に位置付けてストーリーをつくり、SNSなど新しいメディアを通してまず設定したターゲットに認知させることによって、その商品が受け入れられる社会的な“空気づくり”をするもの。

※プロモーション（Promotion）の略ではない。

出典：日本パブリックリレーションズ協会

## マーケティング

「マーケティング」とは様々な定義があるが、大枠では「**売れるしくみづくり**」と解される。三省堂大辞林では「消費者の求めている商品・サービスを調査し、供給する商品や販売活動の方法などを決定することで、生産者から消費者への流通を円滑にする活動。」と書かれている。

**売れる仕組みを作るために様々な要素が必要**であるとされている。

- ・Product: 製品、サービス、品質、デザイン、ブランド 等
- ・Price: 価格、割引、支払条件、信用取引 等
- ・Promotion: 広告宣伝、ダイレクトマーケティング 等
- ・Place: チャネル、輸送、流通範囲、立地、品揃え、在庫 等)

これらを戦略的に考えることをマーケティング・ミックスという。

参考：フィリップ・コトラー、三省堂大辞林など

## 【コラム】研修会・セミナーなどに参加して

### 『自治体マーケティング広報フォーラム』平成30年5月22日

特に印象に残ったのは、行政主導で「まち」を作るのではなく、市民とともに「まち」を創り上げ、市民を「まち」のファンにする仕掛けをすることで、「まち」の魅力、市民の満足度を上げ、その結果として定住につながっているという点だった。龍ヶ崎市でも、「まち」を魅力的にする取組が必要であると認識した。

セミナーで出てきているキーワードは、

- ・ 人口を増加させようとするのではなく、満足度を上げる取組を
- ・ 「まち」の魅力、弱みと強みを市民と見つけ、一緒に発信する
- ・ データを活用していく
- ・ 市民が「まち」のファン、アンバサダーになる仕掛けづくり

であり、その取組が結果として、市民の満足度向上につながり、人口の流出防止・定住促進につながる。

### 『シティプロモーション講座』平成30年11月27日・28日

シティプロモーションとは、地域に真剣になる力（地域参画総量）を増やすこと。市の仕事は、参画する人たちをほめる仕掛けを作ること。「直接、私にとって何のメリットがあるの？」と聞かれたときに、答えられるモノを創り上げることである。「まち」の規模ではなく、参画意欲のある人を増やすことがポイントで、「いい「まち」を作りました！」と提供して終了ではなく、「まち」の中で「自分には意味がある」と考える市民がいる環境を作ることが大切である。

### 『地方創生☆政策アイデアコンテスト』平成30年12月15日

特に感心を持って聞いたのは、ファイナリストの高校生の各組に共通して、自ら街頭アンケートを行ったり、市役所へのヒアリングを行ったりと、それぞれに考え、必要な情報収集を積極的に行っていたところである。

また、審査に先立っての審査員の講評では、「今回は、アイデアの創造性や新規性などだけでなく、実現の可能性も重視する」といった趣旨の発言もあった。

どちらも、定住促進プロジェクトで考えていることと同じであり、プロジェクトで考えている施策案の方向性が誤っていないと感じたところである。

いずれにしろ、「情報や分析結果を根拠とした、実現性の高い施策」の立案が、「定住促進」を考える上で最も重要なものである。そのことを再認識したコンテストであった。

<人が元気 まちも元気 自慢したくなるふるさと 龍ヶ崎>

## 6つの政策提言と市のあるべき姿

～住み続けたい、戻ってきたい、愛したい街の実現へ～

龍ヶ崎市定住促進プロジェクト

龍ヶ崎市定住促進プロジェクトの概要	3
これまでの会議開催状況	4
副部長会議・定例庁議における主な指摘事項	5
我が国・本市がおかれている背景	7
データから見る本市の現状	9
アンケート調査概要	11
施策分析概要	13
施策検討の考え方整理	14
施策提案	17
短期施策の提案	17
中期施策の提案	20
長期施策の提案	23
施策検討のなかで出てきた施策案	26
まとめ	27
参考用語	28

# 龍ヶ崎市定住促進プロジェクトの概要

## プロジェクトの概要

### 設置の目的 <龍ヶ崎市定住促進プロジェクト設置要領>

定住促進に係る先進事例等や基礎的情報(人口動態等)の調査分析及び既存の定住促進に係る事務事業の見直し等や新規事業の創出の検討を行い、その結果を庁議へ報告することで、定住促進に係る施策提言を行い、本市の定住促進を推進することを目的とする。また、併せて定住促進に係る庁内の連携強化を図ることを目的とする。

## 構成メンバー (●:リーダー ▲:サブリーダー)

課等名	職	氏名
財政課	副主幹	堀内 紗矢香
企画課	主幹	染谷 優一(▲)
シティセールス課	主幹	関口 裕城(▲)
こども家庭課	主事	田中 佑典
市民窓口課	副主幹	建林 尋乃
税務課	主幹	小島 徹(●)
交通防犯課	主幹	飯島 龍一
農業政策課	主幹	福山 貴之
都市計画課	主事	窪田 真也
都市施設課	副主幹	野崎 浩太郎
指導課	主幹	佐藤 美穂
保険年金課	主事	根本 祐樹
健康増進課	主幹	水本 奈津子

### 所掌事項

- ・人口動態等定住促進に係る基礎的情報の調査
- ・既存の定住促進に係る事務事業の見直し
- ・新たな定住促進に係る事務事業の創出の検討
- ・定住促進に係る先進事例等の調査
- ・定住促進に係る庁内の連絡調整

### ワーキングチームの設置

施策を検討するにあたり、以下のワーキングチームを設置し、アンケートの実施、特に関連する施策の分析を行い、3つ(短期・中期・長期)のステージにあわせた施策検討を行った。

#### ■アンケートチーム

メンバー|関口、水本、飯島、建林、野崎、根本、小島  
主な内容|ネットアンケート・保健センター、さんさん館などでの対面調査の実施

#### ■分析チーム

メンバー|染谷、窪田、田中、堀内、福山、佐藤、小島  
主な内容|龍ヶ崎市若者・子育て世代住宅取得補助の現状分析

#### ■施策検討グループ

短期|関口、飯島、田中、根本  
中期|小島、窪田、福山、水本、堀内  
長期|染谷、建林、佐藤、野崎

# これまでの会議開催状況

## これまでの会議開催概要

開催日	内容
5月18日	第1回： 事業内容・方向性の説明、定住促進に係る基礎的分析データ収集の役割分担
6月22日	第2回： 収集した基礎データの共有
7月27日	第3回： 地域経済分析システム (RESAS) 出前講座【講師：経済産業省関東経済産業局】
9月14日	第4回： 収集した統計データの分析 (特徴的な統計データの確定)、今後の方向性の共有
10月5日	第5回： 中間報告に向けた資料作成 → 10月17日 副部長会議で中間報告
10月19日	第6回： 立地適正化計画説明 (都市計画課) 副部長会議の共有、今後の検討 → 11月5日 定例庁議で中間報告
11月5日～	庁議以降： 特別職・各部長ヒアリング ※11月16日 市長ランチミーティング
11月16日	第7回： 定例庁議での指摘事項の共有
11月19日	第8回： データから見るペルソナの方向性検討・施策案
12月21日	第9回： 施策案の具体的な検討
1月7日	第10回： 施策案の具体的な検討
1月16日	副部長会議 (最終報告に向けた方向性の整理)
1月25日	第11回： 成果報告会に向けた資料作成

その他、データ収集後の分析作業などの個別検討会の実施、県主催の定住関連説明会や民間主催のシティプロモーションサミットなどに参加

- ・ペルソナを立てた世帯向けにアンケート調査をする
- ・市民の声を聞いた方がより良いと思う



アンケート調査を実施(インターネット・対面調査)  
(P8~9参照)



▲まいんバザール



▲たつのこやま

※その他、保健センター健診・さんさん館で実施

29

- ・ペルソナは1種類で良いのか
- ※各ステージに応じたペルソナが必要では?



短期・中期・長期でペルソナを設定し、施策を検討  
(P11~23参照)

- ・施策分析もしっかりと行ってほしい



中期ペルソナを設定したなかで、特に重要と思われる「若者・子育て世代住宅取得補助」に関する施策分析を実施  
(P10参照)

戦略プランへの想いと整合性「市民一人ひとりに**ふるさと意識**を持ってもらいたい」

## 龍ヶ崎を住む・戻る場所に

最終的に龍ヶ崎へ帰ってきてくれればいい

近隣に住んでいた人が住む場所になりつつある

外から入れるよりも**出さない施策**という視点

## こどもを中心に親を巻き込む

まずは**交流人口増加**を

**子ども中心**に戦略を立て、**親も巻き込む**

子どもたちを引きつけるような**楽しい遊び場の創造**

**たつのこやま以外の遊びの拠点**づくり

## これまでにない視点と事業の整理も

この状況をチャンスに変えて、**事業の整理も考える**時期に

他と同じことをやっても龍ヶ崎市でうまくいくかはまた別の話

**全庁的に関わり**つつ、どう運用していくかの体制まで考えてほしい

以前と同じPRの仕方では定住者は増えない

## 龍ヶ崎を“知る” “触れる” きっかけを

市の歴史、文化財に触れさせる**きっかけづくり**をする

龍ヶ崎市を知るうえで**学校で授業を行う外部講師**

市民が龍ヶ崎を**アピール**

## 教育環境の充実を実感させる仕掛け

教育の面において**子どもに通わせたいと思わせる**仕掛け

“教育で人を呼べる！”環境をつくるのが大切！**誰しものが必ず通う義務教育**に力を

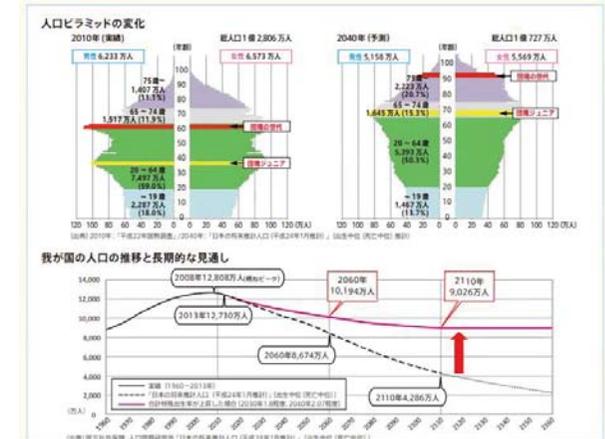
教育の充実。まずは**モデル校でプレ**実施

# 我が国がおかれている背景

背景1

## 「人口減少時代」の到来

- ✓ 合計特殊出生率(以下「出生率」という)は、1970年代後半以降急速に低下
- ✓ 人口規模が長期的に維持される水準を下回る状態が、現在まで継続中。
- ✓ 一方、少子化が進行も、日本の総人口は長らく増加を続けた。  
(出生率の低下によるマイナスを埋めていた要因)
  - 戦後の第一・第二次ベビーブーム世代という大きな人口の塊があったため
  - 平均寿命が伸び、死亡数の増加が抑制されたことにある。
- ✓ 上記時期の人口貯金がなくなった2008年を境に、我が国の総人口は減少期に突入。
- ✓ 今後若年人口の減少と老年人口の増加を伴いながら加速度的に進行
- ✓ 2040年代には毎年100万人程度の減少スピードになると推測されている。

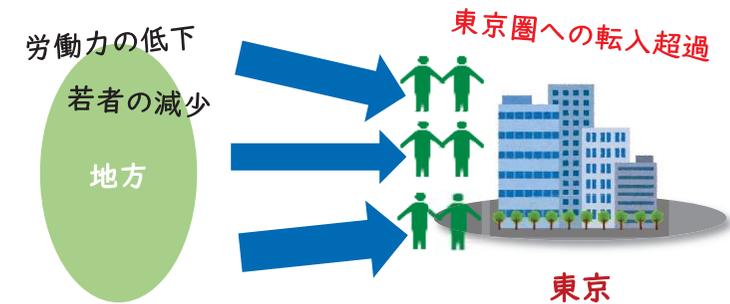


■ 出典: まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」

背景2

## 東京圏への人口の一極集中と日本全体の人口減少の関係性

- ✓ 東京圏への人口が一極集中することで「過密の東京圏」と「人が極端に減った地方」が併存  
結果: その状態のまま人口減少が進行していく。
- ✓ 厳しい住宅事情や子育て環境等から、地方に比べより低出生率の東京圏に若い世代集中  
結果: 日本全体としての人口減少に結びつく
- ✓ 地方の若者が進学や就職で東京に流入することで地方の労働力が著しく欠けることに
- ✓ 東京圏年間転入超過は、歯止めがかからない  
10万(2013)→12万(2017)→14万(2018) ※茨城県は転出超過トップに…(2018)



背景3

## 地方創生がもたらす日本社会の姿

- ✓ 人口減少による地方経済の疲弊を食い止め、立て直すということから始まったのが地方創生
- ✓ 地方創生が目指す姿は…
  - 地域に住む人々が、自らの地域の未来に希望を持ち、個性豊かで潤いのある生活を送ることがしたくなる地域社会を形成すること。
- ✓ 地方が独自性を活かし、潜在力を引き出す多様な地域社会を創出することが基本。
- ✓ 2014年10月: 国における総合戦略が策定:
- ✓ 地方版総合戦略の策定→2015年12月「龍ヶ崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定
- ✓ 2015~2019年の5年間を計画期間として様々な取組を展開中。

人口問題に対する基本認識 「人口減少時代」の到来

今後の基本的視点

- 3つの基本的視点 ①「東京一極集中」の是正 ②若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現 ③地域の特性に即した地域課題の解決
- 国民の希望の実現に全力を注ぐことが重要

目指すべき将来の方向 将来にわたって「活力ある日本社会」を維持する

- 若い世代の希望が実現すると、出生率は1.8程度に向上する。
- 人口構造が「若返る時期」を迎える。
- 人口減少に歯止めがかかると、2060年に1億人程度の人口が確保される。
- 「人口の安定化」とともに「生産性の向上」が図られると、2050年代に実質GDP成長率は、1.5~2%程度に維持される。

地方創生がもたらす日本社会の姿

◎地方創生が目指す方向

- 自らの地域資源を活用し、多様な地域社会の形成を目指す。
- 地方創生が実現すれば、地方が先行して若返る。
- 外部との積極的なつながりにより、新たな視点から活性化を図る。
- 東京圏は、世界に開かれた「国際都市」への発展を目指す。

地方創生は、日本の創生であり、地方と東京圏がそれぞれの強みを活かし、日本全体を引っ張っていく

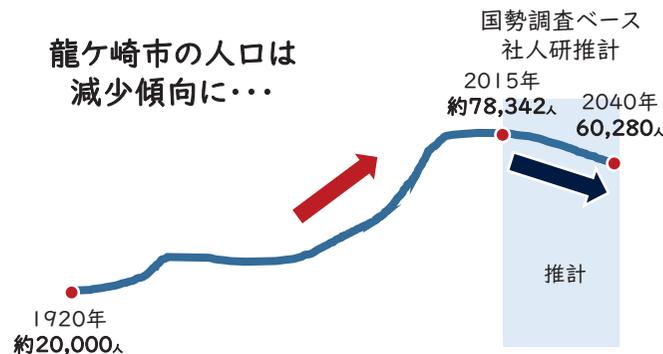
■ 出典: まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」

# 本市がおかれている背景

背景1

## 平成23年以降、本市にも人口減少時代が到来

- ✓ 本市の人口はニュータウン開発により、平成7年には全国2位の伸び率となった。
- ✓ 以降、順調に増加してきたが、平成22年の80,334人をピークに減少傾向。
- ✓ 近年は出生率の低下、死亡数の増加、転出超過などの傾向。
- ✓ 推計よりも早く人口減少が進行(2018.10-77,577人 予測2025年-72,859人)
- ✓ 人口推計値では、平成52年(2040年)には60,280人になると予測。
- ✓ 転出超過のなかで、流入策だけではなく、特に人口の流出防止策が急務な時代に



背景2

## 自慢したくなるふるさとへ「第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」の実行

- ✓ 昭和48年「龍ヶ崎市総合計画」を策定以降「龍ヶ崎市第5次総合計画」まで計画を定め、計画的にまちづくりを進めてきた。
- ✓ 平成23年地方自治法改正により、総合計画策定義務が廃止。平成23年12月に「ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」を策定(計画期間:平成24年~28年)
- ✓ 平成29年には、今後5年間の計画「第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」を策定。
- ✓ 「人が元気 まちも元気 自慢したくなるふるさと 龍ヶ崎」を目指すべきまちの姿としている。
- ✓ その中で、5つのまちづくりの方向性を示している。
  - ・若者・子育て世代が安心して結婚・子育てしたくなる環境を創出する
  - ・住みよさの向上など、住んでみたいと感じるまちづくりを推進する
  - ・少子高齢型社会に対応した地域活力を創造する
  - ・ふるさと龍ヶ崎の現在を担い、未来を拓く人づくりを推進する
  - ・将来につながる基盤づくりを推進する

まちづくりの方向性を示す  
「第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」  
人が元気 まちも元気  
自慢したくなるふるさと 龍ヶ崎



背景3

## 実は“住めば都”?認知度は低いが、住民の定住・推奨意向は高め?

- ✓ 本市独自調査によると、本市の認知度は近隣市と比較し、極めて低い状況にある。
- ✓ 「第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」でも認知度向上、イメージアップの施策を展開中
- ✓ 子育て世代対象調査では、8割以上が住み続けたいと回答。
- ✓ さらに、約7割が勧めたいと回答し、特に未就学児が長子の場合、より積極的に推奨傾向

市外の人

龍ヶ崎のこと  
知らない



市内の子育て世代

龍ヶ崎のこと  
勧めたい



龍ヶ崎に  
住み続けたい



# データから見る本市の現状

以下のデータをメンバーで収集し、報告を行い、必要なデータのピックアップを行った。

収集方法：市所有データ、国勢調査、RESAS※（地域経済分析システム）、外部提供データなど

※RESASとは…地方自治体の様々な取り組みを情報面から支援するために、まち・ひと・しごと創生本部事務局が提供する、産業構造や人口動態、人

の流れなどの官民ビッグデータを集約し、可視化するシステム

1 人口	転出入数／転出先市区町村／転出入の理由／転出入の年齢／行政区別人口／世帯構成／小中学生がいる世帯数／転入元市町村	7 住宅	空家の件数／空家（空地）を利用したい人の数／利用したくなる空家の数／持ち家の取得時年齢／居住の実態（借家・持ち家の割合）／エリアごとの土地価格相場／エリアごとの家賃相場
2 学校	流大生の就職先／流大生の住登状況／流大生の出身地／流大生の卒業後の居住地／市内高校への通学者割合（市内・市外）／市外高校への通学者数／小中学生の意識調査（ピックアップ等）／奨学金の利用者数／学カテストの位置（順位）	8 仕事	仕事帰りの寄り道先／通勤距離、時間、手段／市内企業数（従業員の市民の割合）／市内への通勤者数、年齢、業種／市民の勤務先（市内・市外）／市外の通勤者数／市外企業へ就職した学生数／市外企業へ就職希望の学生数／市民の職業／社会人の数（職業別）／女性の就業率
3 所得	所得の地域間ギャップ／正社員・契約社員か（雇用形態）／貸家居住者の所得／子育て世代の所得／新築の所有者所得状況／固定資産税・市民税の推移	9 施設	駅の利用者数／駅の利用割合／公共施設の利用者データ（年齢、性別、職業）／市内の病院数／市内の病院の受診者数／娯楽施設の利用先／公園数／公園の利用者数／公園の遊具数
4 観光	農産物生産量／市のイベントの入込客数／イベントの参加理由／交流人口数	10 その他	ハザードマップ／地質データ／飲食店マップ／ふるさと納税の活用／愛着度（新成人など）／車の所有台数／健康状態（元気な人の数）／健康状態（医療費など）／犯罪件数／高齢化の状況／買い物先／コミュニティバス利用者数／SNSの利用年代
5 子育て	子育て世代の推奨意向／合計特殊出生率／保育園・幼稚園利用状況／乳幼児・妊産婦の助成制度／子育て支援制度の満足度／学童保育ルームの利用状況と理由		
6 イメージ	認知度・魅力／メディアの件数／子育て世代の市のイメージ／住んでよかったと思う理由／職員の龍ヶ崎市推奨意向		

## 人口

- ✓ 人口はH22年をピークに減少傾向
- ✓ 大学卒業年代の社会減の幅が大きい
- ✓ 社会減は50歳代まで続く
- ✓ 駒柴地区の子どもの減少幅が大きい
- ✓ 北竜台は就職時期で社会減に転じる
- ✓ 龍ヶ岡は子育て世代が増加傾向
- ✓ 稲敷・利根から転入超過
- ✓ 千葉・つくばへの転出が多い
- ✓ 0~4歳の子どもは転入超過傾向  
※家族も転入してきている可能性が非常に高い
- ✓ 近隣エリア間の転入・転出が多い
- ✓ TX沿線へは転出超過になっている

## 所得

- ✓ 雇用者所得が他市よりも低い
- ✓ 市外で稼いだお金が市内で消費されず、市外に流出
- ✓ 大宮・長戸(農業)と龍ヶ崎(商業)の所得が変わらない
- ✓ 北竜台・龍ヶ岡地区の所得が高い

## まちへの愛着

- 【全国・県との比較】
- ✓ 地域での学習機会は大差ない
- ✓ 地域の問題や出来事に関心が低い
- ✓ 地域でボランティアに参加する子どもたちが多い
- 【市独自】
- ✓ シビックプライドとシティズンシップが誤用されている
- ✓ 中学生になると、まちへの関心度がより低くなる傾向

## 子育て環境・教育

- ✓ 出生者数は減っているが、出生率はほぼ横ばい
- ✓ 出生率が県・全国と比較しても低い
- ✓ 離婚率が高いので出生率が下がっている可能性あり
- ✓ 2歳未満の子どもがいても離婚傾向あり
- ✓ 子育て世代の約7割は環境を推奨

## 商工業

- ✓ 様々な産業がまんべんなく存在している
- ✓ 通勤時間が1時間以内の人が多い
- ✓ 通勤での流出者数の減少、流入者数の増加傾向
- ✓ 都内を通勤先とする市民は多いものの減少傾向
- ✓ 近隣エリアからの流入者数増加傾向

## 住環境

- ✓ 他市に比べて広い部屋を借りられる
- ✓ 住宅価格は都内から離れると安くなる傾向(※駅徒歩圏)
- ✓ 建物面積には影響していない
- ✓ 佐貫駅近くの建売物件が少ない(※検索に出てこない)
- ✓ 中古物件も住宅取得補助対象だが、資料不足で対象外ケースあり

# アンケート調査概要

## 調査の概要

目的 | ・子育て世代の生活実態などの調査  
 ・子育て世代の本市への今後の定住意向などのサンプリング

以下の方法で主に龍ヶ崎市内で子育てをしている方(特に30~40代前半の女性)を狙い、インターネットおよび対面でアンケート調査を実施した。

主な項目 | 性別、年代、出身地・通勤先(回答者・配偶者)、住まいの形態、住むにあたって重視したこと、今後の居住意向、自由意見 など

35

インターネット	
期間	12月6日から12月16日(11日間)
対象	メール配信サービス(子育て情報)登録者4,276人
回答方法	Googleアンケートフォームでネット回答
回答数	244サンプル

対面調査	
期間	12月2日から12月14日
対象	①保健センターでの子どもの健診受診の保護者 ②まいんバザール来場者 ③たつのこやま来園者 ④さんさん館来館者
回答方法	個別に声掛けし、アンケート用紙に記入
回答数	221サンプル 内訳   ①106 ②30 ③32 ④53

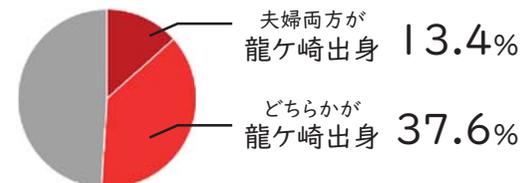
## アンケート結果からみるポイント

前提条件 | 回答者の約9割は女性、30~40代前半が中心  
 ※たつのこやま分は市外在住者が多いため除外

### 夫婦どちらかが龍ヶ崎出身は約5割(うち1割は市内同士)

夫婦両方もしくはどちらかが龍ヶ崎出身は約5割と約半数を占める傾向であった。

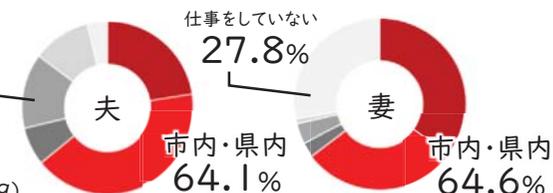
(たつのこやまを除く分で集計)



### 通勤先は市内もしくは20km圏内!都内への通勤は約1割

夫・妻とも勤務先は東京都内20km圏内が多い傾向であった。夫の通勤先が東京は約1割でRESASと同様の結果となった。

(メール配信回答者女性のみn=209)



### 選ぶのに重視したことは“どちらかの実家に近い”

住まいを選ぶときに、近くに実家があることが重視される傾向にある。さらに住み慣れた環境と続く。つまり、地縁が重視されている傾向がある。

(たつのこやまを除く分で集計)

項目	総計
自分の実家に近い	164
配偶者の実家に近い	112
配偶者の通勤先に近い	69
住み慣れた環境	64
自分の通勤先に近い	48

### 実は多い市外来訪者?たつのこやまは交流人口増の拠点

休日にたつのこやまで遊んでいる家族は、市外在住者が多い可能性あり。交流人口増加の拠点になる可能性を秘めている。

(たつのこやま分で集計)

在住市町村(n=32)	総計
龍ヶ崎市内	12
県内(牛久④・取手④など)	15
千葉県内	5

## 教育環境の充実で学力アップへ

流经大との更なる交流、さらにサポートを (40代女性)

小学校の合併は早く進めてほしい (30代女性)

アフタースクールの充実・学童保育の時間延長 (40代女性)

ニュータウンとの学力の差・姿勢に差を感じる (30代女性)

## 佐貫駅周辺の子育て環境充実を

駅前に魅力がない。送迎車での混雑緩和を (40代女性)

36 駅近くに預かり保育がしたくなる場所があると嬉しい (30代女性)

馴染地区の歩道ではベビーカーを押しづらいので整備を。

市長さんはじめ実際に歩いてみては？ (40代女性)

学童保育やファミサポの申請をサプラでも (40代女性)

## 4歳になっても通える子育て施設

4歳以上でも屋内で安全に遊べるさんさん館的施設を (30代女性)

弟や妹なしの3歳以上の子が支援センターを

利用できないのは悲しい (30代女性)

幼児から小学生までが入れる児童館がほしい (30代女性)

雨などのとき、遊べるのが自宅しかない (40代女性)

## より子育てしやすいまちに

4月以降は待機児童で育休から復帰できない (30代女性)

子育て環境日本一が金銭面であまり感じられない (30代女性)

市民があたたかいので子どもも優しく育ちそう (20代女性)

子育てに優しい街づくりが気に入っている (40代女性)

他と比べ、子どもの健診が充実している (30代女性)

しっかりとした子育て施策があるので安心して住める (40代女性)

## 暴走や不審者…求む！治安の改善

暴走が多いのが気になる (40代女性)

不審者情報が多いのでスクールバスがあれば安心 (40代女性)

子どもが安全な場でないと子育て世代は離れる (30代女性)

便利で住み心地は良いが、暴走族がうるさい (30代女性)

## 今後の展開のポイント

- 自由意見には今後の施策展開のヒントが隠れている。
- 子育て世代の声から改善・実現することで「子育て環境日本一」へ。
- 金銭面の意見もあるが、財源豊かな都市には勝てず、疲弊する。
- したくなるだけ環境面で満足度をあげる方向にもっていく。

# 施策分析概要 | 対象施策：龍ヶ崎市若者・子育て住宅取得補助

## 事業の概要

目的 | 市内で初めて住宅を取得した、住宅ローンを抱える若者・子育て世代を経済的に支援することにより、若者・子育て世代の住み替えを支援し、定住化を促進する。(H27年度から実施、H30年度制度変更)

事業内容 | 基本額、加算額の合計で30万円が上限の補助 **赤字変更点**

		H29年度まで	H30年度から
補助対象者		申請者もしくは配偶者が40歳未満であること	左記+世帯に18歳未満の申請者の子がいること
基本額		10万円	
加算額	子育て	転入者であって世帯に18歳未満の子がいる場合、子ども1人につき5万円	転入、転居に限らず、世帯に18歳未満の子がいる場合、子ども1人につき5万円
	転入者	5万円	10万円
	近居・同居	5万円	
その他		市税の滞納がないことや所有権登記、検査済証の提出等条件あり	

## これまでの実績

事業開始以降の交付実績は下記の通りであり、制度変更に伴い交付金額今年度増加傾向にある。

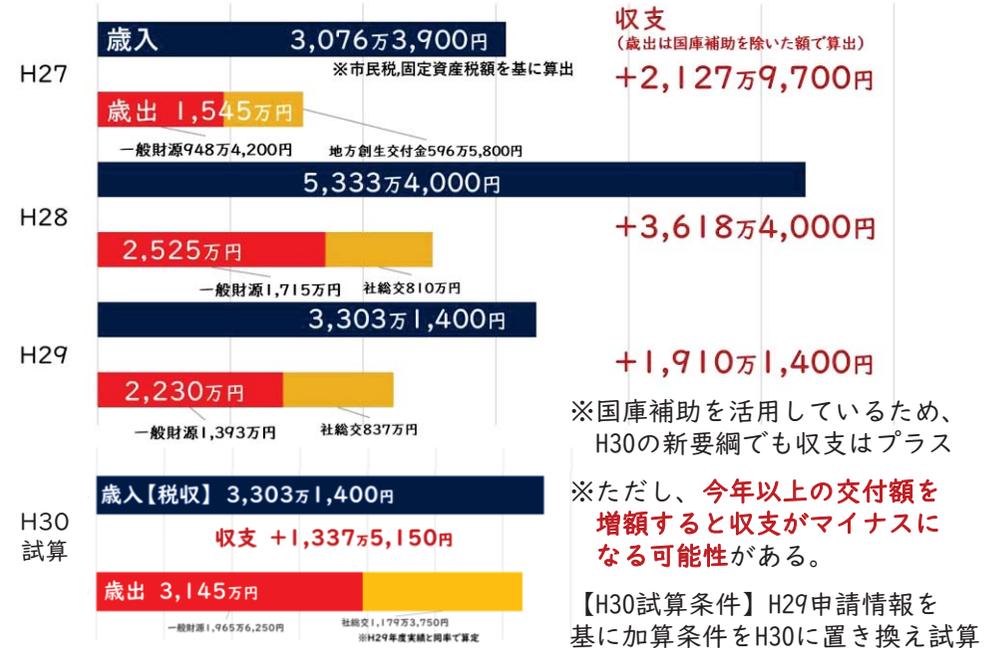
	H27	H28	H29	H30
交付決定件数	102	185	155	110
転入加算	38	51	50	27
近居加算	16	24	30	12
子育て加算	68	122	122	94
交付金額	15,450,000	25,250,000	22,300,000	22,300,000
平均交付額	151,471	136,486	143,871	202,727

## 実績・アンケートに基づく分析・事業費試算

アンケート・実績 | H27~H29のアンケートに基づくポイント

- 前居住地は「龍ヶ崎市内」が約7割と圧倒的に多い
- 住宅取得前は市内アパート居住が約8割(うち、北竜台・龍ヶ岡約5割)
- 事業認知はハウスメーカー・市HPが増加、口コミが減少
- 内容を見直しすべきとの回答が年々増加している(市内転居者の不満)

事業収支 | 歳入(固定資産税・市民税)と歳出を単年度収支で分析した。



## 今後の展開のポイント

- 平均交付額は増額傾向であり、財源確保が必要となってきた
- 財源や事業収支を考慮すると**補助額の増額は行わない**べき
- 市外向け増額は流入増ではなく、市内転居の不満を増やすので要対策
- 増額よりも口コミを生み、市内を知るようなインセンティブが効果的

・我が国や本市がおかれている現状、アンケート調査、データ分析などから施策検討にあたり施策の方向性を以下の通り、整理した。

## ✓ 龍ヶ崎をより知るきっかけづくり

- \* 知ってもらわなければスタートラインにも立てない
- \* 市役所で働く職員が龍ヶ崎のまちを知る
- \* 子どもたちが先生から教わる以外でまちを知る

## ✓ 市外からの流入<人口の流出防止

- \* まったく知らない人を転入させるのはハードルが高い
- \* 在住市民の転出を抑制させる(特に小学校入学前の子育て世代)
- \* 都心から人口流入は期待しにくい

## ✓ シビックプライドの醸成

- \* 短期間での醸成は難しいので、子どもから大人までの継続的な取り組み
- \* 住んでいる人が龍ヶ崎を勧める人になるようなきっかけ
- \* 子どもたちが将来戻ってきたくなるような仕掛けづくりで定住促進

- ・第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プランをはじめとする市計画との整合性を保つ。
- ・まちづくりの観点から市全体を見て、事業を検討する。

施策を検討するにあたり、短期・中期・長期の3つの区分に分けた。  
あわせて、実施施策の内容イメージを以下のとおりとした。  
さらに、各期間にあわせたテーマを設定した。

区分	実施施策イメージ	テーマ
短期	すぐにでも実施できる施策 ⇒すぐに取り組める 成果は将来的に出る	職員同士の意識共有 職員のシビックプライド
中期	予算も人手も念頭に5年スパンで計画・実施する施策 ⇒5年目に成果がでる	龍ヶ崎出身ママが地元で子育てしたくなる環境 ～パパは仕事を変えず龍ヶ崎で～
長期	予算も人手も念頭に10～20年スパンで計画・実施する施策 ⇒10年目から先に成果がでる	小学生に龍ヶ崎愛を芽生えさせ、龍ヶ崎で恋を♥ ～親へも愛着の循環を～

# 施策検討の考え方整理 | 基礎データとペルソナ

施策を検討するにあたり、複数の基礎データからペルソナを設定し、施策案を設計した。

期間	主な基礎データ	ペルソナ	施策案
短期	<ul style="list-style-type: none"> <li>若手職員の意識調査 → 出身地や愛着度など</li> <li>全国学力・学習状況調査 → 小中学生のまちへの関わり合い、愛着など</li> </ul>	<p>龍ヶ崎市役所職員 中田 侑太さん 年齢 27歳 性別 男性 経歴 入庁3年目 所属 市民窓口課戸籍担当(3年目)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若手職員の龍ヶ崎街歩きをし、知る機会を創出。その後外部講師として地域のことを小学生に教える授業の実施</li> <li>新規採用職員研修(後期)での庁内報づくり</li> </ul>
中期	<ul style="list-style-type: none"> <li>RESAS → 人口移動、経済地域循環など</li> <li>転入転出データ → 人口移動先、流入元など</li> <li>住宅・土地統計調査 → 通勤時間など</li> <li>住宅取得補助事業分析結果 → 事業の収支など</li> <li>子育て世代アンケート → 出身地やリアルな声</li> </ul>	<p>龍ヶ崎市在住 渡辺 加奈さん 年齢 32歳 性別 女性 出身 龍ヶ崎市 仕事 パート 住居 佐貫駅そばのアパート</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミセン休館日を利用した4歳以上の月曜日の遊び場づくり</li> <li>龍ヶ崎市若者・子育て世代住宅取得補助の補助増額以外での充実</li> </ul>
長期	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力・学習状況調査 → 小中学生のまちへの関わり合い、愛着など</li> <li>RESAS → 人口移動、経済地域循環、商工業の立地状況など</li> </ul>	<p>龍ヶ崎市立八原小学校3年 高野 脩人くん 年齢 8歳 性別 男性 キャラ サッカーをやっている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが龍ヶ崎を学ぶ「クイズ(検定)」の創設</li> <li>様々な職種が多いことを生かした仕事体験イベントの開催</li> </ul>



## ■プロフィール

年齢 | 27歳 性別 | 男性 経歴 | 入庁3年目  
所属 | 市民窓口課戸籍担当 (同部署で3年目)

## <ゴール>

- ✓ 龍ヶ崎の政策や財政状況に興味をもつ
- ✓ 龍ヶ崎市の歴史などを他の人に伝えることができる
- ✓ 龍ヶ崎市から転出しない

## ■エピソード

市外出身の親の都合により、転入した。龍ヶ崎市の松葉小・長山中出身なので、遠い昔に授業でまちのことをやっていた記憶はある。高校は竜ヶ崎一高、大学は都内の大学に進学、龍ヶ崎の歴史やまちのことにあまり関心がなく、さらに、市の財政状況や政策の話なども業務が忙しく興味がない。

そのため、財政推計によると、大型事業が続き、財政状況が厳しくなるといったことさえ知らず、日々窓口業務に追われ、通知文などもよく読まずにハンコを押して、次の人に回している。

龍ヶ崎に住み続けていると仕事の呼び出しや地域担当職員になるなど業務以外のことも増えてしまうのは嫌だと考えている。

プライベートでは、単行本などよりもマンガのほうがどちらかというが好き。結婚を考えている彼女が住んでいるつくば市（彼女の仕事先はつくば）へ転出し、同棲しようと検討中。

# 短期施策① | 「龍ヶ崎をマチアルキ」「龍ヶ崎をススメ」

【テーマ】  
職員同士の意識共有  
職員のシビックプライド

新規採用職員を対象に学びの場を与え、龍ヶ崎を知る機会を創出し、人材育成する。  
知るだけでなく、学校の地域学習の時間に外部講師として行くことで、伝える機会も創出

## これまで

### 新規採用職員

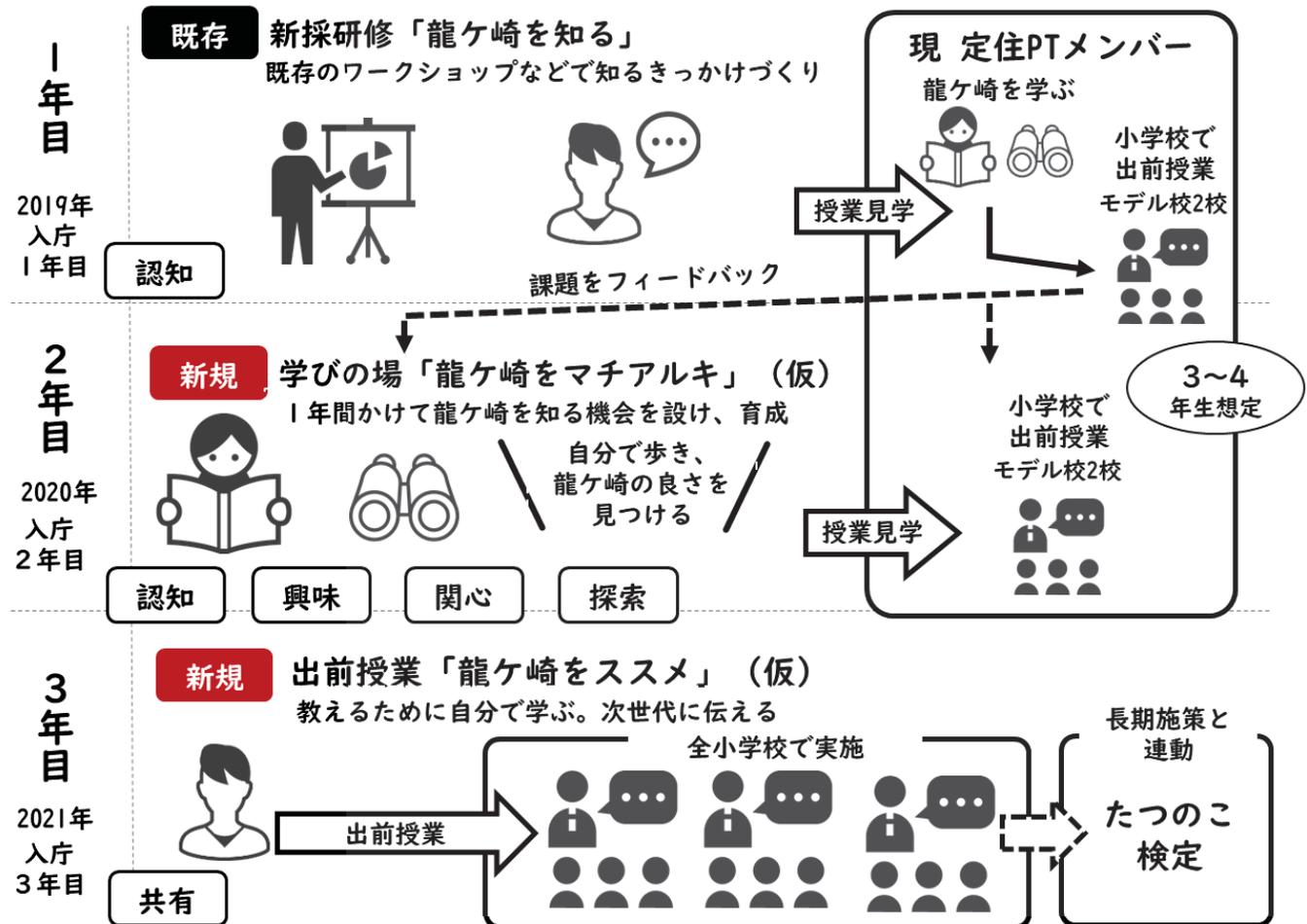


### 1年目以降…

自分で学ぶ機会がない  
学びたいけど時間がない  
龍ヶ崎のことに興味がない  
聞かれてもわからない  
人に伝える機会がない

“ない” がたくさん

## 今回の実施プラン



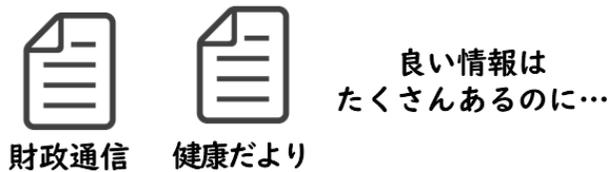
職員のシビックプライド醸成・子どもたちが龍ヶ崎に興味を持つきっかけに

# 短期施策② | 「おススメの龍ヶ崎・仕事紹介」を庁内へ

【テーマ】  
職員同士の意識共有  
職員のシビックプライド

既存の新規採用職員研修（後期）を活用、前期研修と連動し、伝える力を養う  
職員が気になる新規採用職員の情報発信、仕事内容も伝えることで情報共有を図る

## これまで



目の前の業務が忙しい現状  
他の課の通知や情報も流し読み  
全体を考える・知るきっかけがない

読みたい&気になる内容  
読む時間ときっかけが必要

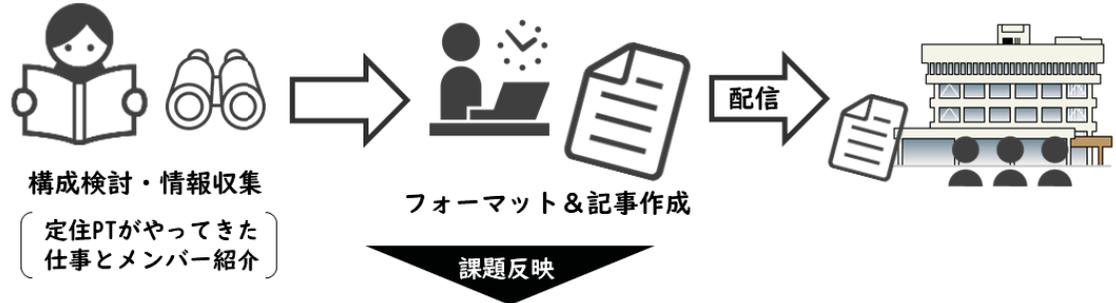
## 今回の実施プラン

### 1年目

2019年  
現定住  
メンバー

既存

情報発信研修「チラシ制作」などを活用  
既存研修やノウハウを活用してフォーマットづくりとプレ発行



新規採用  
職員対象

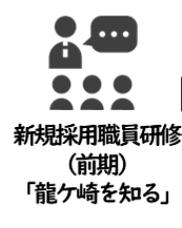
新規

「おススメの龍ヶ崎・仕事紹介」を庁内報（仮）で紹介  
新規採用職員研修（後期）で編集作業をし、年1回発行する

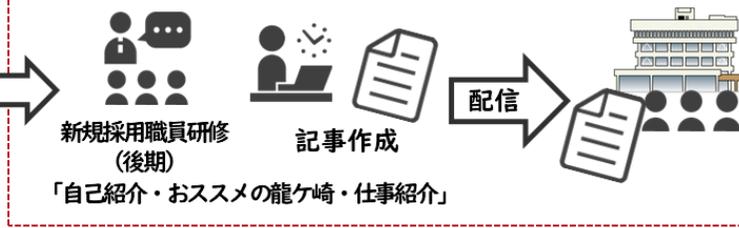
### 2年目

2020年  
新規採用  
職員対象

既存



新規



### 3年目

継続

新規採用職員研修で仕事紹介&広報力アップ

- 仕事紹介 → 職場内のコミュニケーションの活性化
- 広報力アップ → 最終的に市民へわかりやすい情報伝達の癖

**■プロフィール**

年齢 | 32歳      性別 | 女性      出身 | 龍ヶ崎市  
仕事 | パート      住居 | 佐貫駅そばのアパート

**<ゴール>**

- ✓ 教育環境を知り、龍ヶ崎市へ一戸建てを購入
- ✓ 市長の手紙への声を反映した子育て環境の充実
- ✓ 龍ヶ崎市をより知ってもらい、愛着をもってもらう

**■エピソード**

龍ヶ崎市出身で馴柴小、城西中出身、ちょっと都会へと高校は千葉県、大学は都内へ。高校時代の先輩であった夫（我孫子市出身：34歳）と結婚し、4歳と1歳の2児のママ。

自分が育った実家の近くで子育てしたいと考えていて、佐貫駅そばのアパートで暮らしている。龍ヶ崎はあまり不便ではないと感じているが、4歳児以上の室内の遊び場など子育て環境の更なる充実をしてほしいと市長の手紙を送ったりもする。

出産後も仕事は続けたいと考え、今は通勤時間30分をかけて、つくば市でパートをしている。

夫は龍ヶ崎への転居に最初は抵抗感があったが、子どもと妻のことを考えると、しょうがないと渋々引越、3年目を迎え、ちょっと龍ヶ崎も良いかもと思いはじめている。

長女の小学校入学を控え、一戸建てを検討中。教育環境のことが気になりだしている。

# 中期施策① | 「月曜日の4歳の遊び場」

【テーマ】  
龍ヶ崎出身ママが地元で子育てしなくなる環境  
～パパは仕事を変えず龍ヶ崎で～

子育て世代のママの声で多い4歳児以上の遊び場を休館日の施設を活用しハード整備をせず設置。転入転出が多い馴染地区をモデルに満足度を上げることで、流出防止に繋げる。

## これまで

子育て中のママ

さんさん館は遠いし…



佐貫駅の近くに子育て支援センターはあるけど、3歳までしか利用できないし…

「佐貫地区には子どもを連れて遊ぶ場所がない…」

『子育て環境の更なる充実』  
を期待して市長への手紙を出したが…



一向に**実現**されない…  
**気配**すらない…

45

## 今回の実施プラン

課題 いきなりハード整備はリスクが大

そこで**月曜日休館**のコミュニティセンター  
を利用して実施。→※公共施設の有効活用

まずは、馴染コミュニティセンターから



### ポイント

- ・ ニーズの把握
- ・ 事業実施に向けて設管条例などの整理。
- ・ 実施時期やイベント等の検討。
- ・ 駐車場や交通手段の確保。→ ※公共交通機関（バス）の利用を検討。
- ・ 『知らなかった』とは言わせない周知方法の検討。

1年目

2019年

2年目

2020年

3年目

2021年

⋮

5年目

2023年

モデル事業スタート

評価・検証

評価が悪ければ、  
事業廃止を検討

リニューアルスタート

たとえ、評価が良くても  
違う場所で事業継続

必要と判断できれば、ハード整備を検討。

ママの声が実現



# 中期施策② | 「カネからモノへ住宅取得補助の拡充」

【テーマ】  
龍ヶ崎出身ママが地元で子育てして欲くなる環境  
～パパは仕事を変えず龍ヶ崎で～

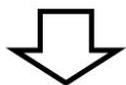
補助金の金額増額で競い、人口を増やすのではなく、まちを勧めてくれる市民を増やす。  
ロコミに協力してくれた市民に対し、市内特産品のインセンティブを与え、市内経済も循環させる。

## これまで



平成27年度から補助事業を実施

平成30年度から  
加算要件の拡充



今後、立地適正化計画では  
補助金の拡充を検討

しかし、アンケート結果では…



『転入ばかり優遇されていて、  
市内の転居と差があるのは  
納得できない。』

『長年、市内に居住している  
市民を大切にしていないように感じる。』



市外からの転入に  
目が行きすぎてしまっている

46

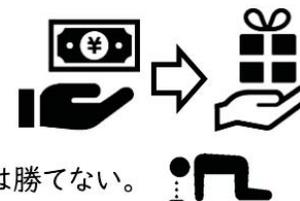
## 今回の実施プラン

課題整理・事業展開案の検討

課題

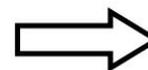
1年目  
2019年

- 市外からの転入が難しい時代(データからも)
- 今の予算額を超えない拡充策の検討・継続的な事業分析。
- カネではなく、モノで。  
⇒ロコミで制度+龍ヶ崎を広げる策の検討。
- 安易な増額では、財政力のある市町村に現状の龍ヶ崎市は勝てない。



時代の  
変化

外から人を呼び  
人口を増やす



まちを愛し、  
勧めてくれる人を増やす

2年目  
2020年

事業のリニューアル

リニューアルスタート



市サイトでのロコミ投稿

インセンティブ(特産品)



3年目  
2021年  
5年目  
2023年

評価・検証

事業実施



市内店舗  
リピーターとして  
店舗の商品を購入

ロコミによる  
新たな顧客の獲得!!

インセンティブ(特産品)



補助金申請者を  
インフルエンサー化



子育て世代を  
PRファミリーに



『龍ヶ崎市って子育て世代多いね!!』  
を生み出す。



## ■プロフィール

年齢 | 8歳 性別 | 男性

キャラ | サッカーをやっている

## <ゴール>

- ✓ 撞舞やお祭りなど市内のイベントに行く
- ✓ 学校で習った龍ヶ崎のことを親や市外の友達に話す
- ✓ 30歳で結婚した時に龍ヶ崎に住んでいる

## ■エピソード

つくば市出身の両親（40歳）が家建て、5年前にたまたま龍ヶ崎に引っ越してきた。なぜここを選んだのかはわからない。親は龍ヶ崎に縁もないため、まちの歴史などは知らず、興味もない。

家での親の口癖は「あ〜つくばのほうが便利だなあ」。最近、その言葉をよく聞くので「龍ヶ崎ってなにもないのかなあ」と漠然と思いだしてきた。親は「大学は都内に行きなさい」も口癖。

学校では、少しだけお調子者で男女問わず仲はよく、ムードメーカー的存在。

サッカーをやっていて、休日はつくばにあるサッカースクールに通っているため、市内のイベントに出かけたり、連れて行ってもらうことはほとんどない。家族とのお出かけはもっぱらつくばにあるショッピングモール。

まいりゅうは知っているが、どんなキャラクターなのかも知らず、モチーフとなっている撞舞は見たことがなく、同じお祭りでもニュータウンのお祭りには行く。

# 長期施策① | 「たつのご検定」で龍ヶ崎を学ぶ

【テーマ】  
小学生に龍ヶ崎愛を  
芽生えさせ、龍ヶ崎で恋を♡  
～親へも愛着の循環を～

龍ヶ崎にまつわる「たつのご検定」を子どもが好きなクイズで行うことで龍ヶ崎を知る機会を創出  
クイズを通し、親子の話題作りをすることでシビックプライドを醸成、外出にも繋げる

## これまで

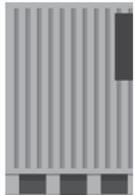
八原小3年高野修人くん(ペルソナ)の家族の会話



「パパ～今週末もつくばイオン行って  
ゲームセンター行きたいよ～」

「龍ヶ崎ってなんもねえ～」

「そうだな、今回もつくばイオンにいくとするか」



週末はいつも市外へ  
市内のイベントなどは  
あまり行かない

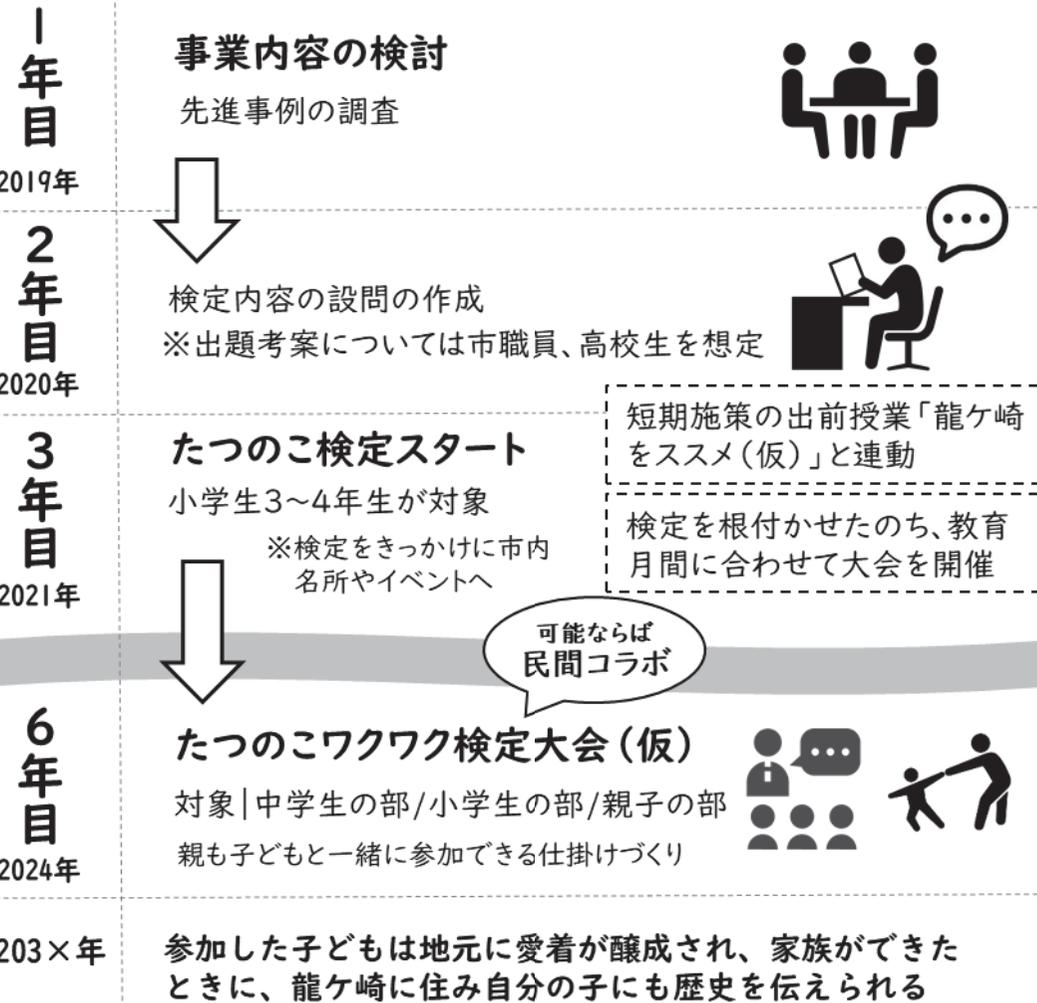
親が龍ヶ崎に対して全く関心がない

↓  
その子どもは当然地元に対して愛着がわからない

↓  
龍ヶ崎に興味を持つきっかけが授業以外であまりない

龍ヶ崎のことを親と楽しみながら  
知るきっかけが不足

## 今回の実施プラン



# 長期施策② | 「たつのこワクワクワーク」(仮)

【テーマ】  
小学生に龍ヶ崎愛を  
芽生えさせ、龍ヶ崎で恋を♡  
～親へも愛着の循環を～

主に市内の子どもたちを対象に、龍ヶ崎の街全体で、様々な仕事体験がしたくなるイベントの開催  
様々な産業がある特徴を生かし、市内産業を知る機会、仕事や稼ぐ経験に繋げシビックプライドを醸成

## これまで

### 龍ヶ崎市の店舗や仕事に触れる機会

#### 小学校 | 副読本などでの地域を知る授業

※小学校での実施状況  
八原小学校だけが職場見学(少し体験ができる)を実施

#### 中学校 | 2年生の授業として職場体験学習

#### 職場体験学習の効果

- ・「働く」ということの大変さや大切さを知る
- ・日々、子どものために働いてくれている親への感謝も生まれる
- ・働くことを通して自分自身を見つめ直し、社会性も身に付ける



#### 「授業の一環として職場体験学習を実施」

学校の授業のひとつではなく、  
楽しみながら、小学生のうちから  
仕事に触れられる機会  
市内店舗を知るきっかけづくりが不足

様々な産業がある龍ヶ崎の特徴を生かし実際に働き、  
稼ぐ経験をするイベントは創出可能

↓  
交流人口増加に期待がもてる

## 今回の実施プラン

1  
年  
目

2019年

### 調査研究(先進地調査)

長崎県平戸市「Kidsジョブチャレンジ」  
静岡県島田市「こどもわくワーク」など

※他自治体事例も参考にして研究を進めていく



2  
年  
目

2020年

### 事業設計

調査研究に基づき「龍ヶ崎ならではの」の  
プレイベント開催、その後のイベント開催に向けた  
事業内容を設計していく。

ex. プログラム数、プログラムの協賛、KPIの設定、インセンティブ等...



3  
年  
目

2021年

### プレイベントの開催(公共施設中心)

主に公共施設(市役所・消防署・図書館等)を  
プログラムを組んで実施する。

※図書館司書体験(既存)、広報紙を作ろう、消防隊員になろうなど  
※事業後にアンケートなどで効果検証を実施



### 課題反映

4年目  
以降

### 「たつのこワクワクワーク」本格実施

市内小学生を中心に  
市外参加者も募集

203×年

参加した子どもは地元で愛着が醸成され、家族ができた  
ときに、龍ヶ崎に住み自分の子にも歴史を伝えられる

施策検討を行うなかで、実際の施策案として提案につながらなかったものの出たアイデアの一部を以下に示します。

- 市役所内への企業内保育所の設置
- 職員の市内食べ歩きツアー
- ママ向け起業支援
- 住宅取得補助金(リノベーションへの対応)
- さんさん館の休日開館
- 小学校オープンキャンパス
- 職員が行う学力アップのため無料塾の開催
- まいりゅう、家を買う!!(家を探し、購入するまでのプロセスを紹介)
- 閉校した小学校をおもちゃ美術館に利用(秋田県などで事例あり)
- 大和ハウスとコラボでエリア見学会
- たつのこやまの遊具の充実
- プラレールで竜鉄とコラボ(子どもの遊び場づくり)
- 撞舞の楽しみ方(龍ヶ崎を知るためのイベント)
- しだれ桜の楽しみ方(龍ヶ崎を知るためのイベント)
- eスポーツ大会

その他、多数あり

## 「人が元気 まちも元気 自慢したくなるふるさと 龍ヶ崎」へ 実現に向けた定住促進プロジェクトに取り組みから考える10のまとめ

今回の定住促進プロジェクトを進行していくなかで、様々なデータやアンケートなどから本市の置かれた状況に対し、メンバーはこれまで以上の危機感を覚えたのは事実である。疲弊する職員や財政状況などを目の当たりにし、いかに本市を維持し、「人が元気 まちも元気 自慢したくなるふるさと 龍ヶ崎」を実現するかを色々な角度から考えた。本活動でのまとめを以下のとおり示す。

- 一、 今回部署をまたいだデータの収集やRESASに基づく分析を実施し、今までとは違った視点で物事をとらえ、施策提案を行っている。シティセールス課では人口動態や要因、他市との比較を分析しており、市民の流出防止を第一に愛着の醸成に向けた各種取り組みを続けている。
- 一、 我が国は、人口減少社会が到来しており、本市でも人口を増やすことは困難を極める。つまりは人口減少の幅を抑え（流出防止を図る）「まちに愛着をもつ」「まちにかかわる」「まちを勧める」市民を増やす時代になっていることを全ての職員が理解するべきである。
- 一、 今回アンケート調査を実施したが、市に対する要望や市政運営に対し、厳しい意見が多かったのは事実である。「子育て環境日本一」を目指す本市にとって、意見を施策のヒントととらえ、少しでも実現に向け施策展開をすることで子育て世代の満足度を上げ、推奨するきっかけづくりをすることは定住促進（人口流出防止）の有効な手段のひとつである。
- 一、 一方で、要望を実現するだけではなく、行政にやらされているのではない、自らまちのことを考え、関わり、自発的に行動してくれるひとづくりに並行して取り組み、市民の満足度や愛着をより高めることが、結果的に定住促進に繋がると考える。
- 一、 職員数が減っている中で「働きやすい環境を作り出すこと」「チャレンジする機運の醸成」は急務である。施策の積み上げ、継続が多く、職員が疲弊してきている現状から目をそむけてはいけない。疲弊した職員は仕事へのモチベーションも保てなくなり、職員としての誇り、龍ヶ崎への愛着は薄れていく。
- 一、 新たな施策を行う場合は、全体の施策のクオリティをあげるためには、これまで以上に人・カネを回すという意識が必要である。今後新たな施策を行う場合には財源確保・人材確保の視点からも既存事業の整理は必要である。
- 一、 市民のニーズに合わせた施策をスピード感をもって実行していくことが重要であり、“今やらなければ”取り返しのつかないことになる。つまり、このタイミングで何かしらの手を打たなければ、将来的に市の運営は成り立たなくなり、市は潰れる。
- 一、 現在人口が増加している他自治体においても遅かれ早かれ本市と同じ状況が到来するものと考ええる。
- 一、 この取り組みに特効薬はない。今一度、定住促進やシビックプライドの醸成は時間がかかり実現したくなるものであるとの共通理解が必要である。そして、ブレずに地道に積み重ねていくことが一番の近道であると考ええる。
- 一、 今後龍ヶ崎市を担っていく子どもたちが、龍ヶ崎を「自慢したくなるふるさと」を感じ、伝えられるような龍ヶ崎愛をどのように根付かせ、進学や就職で一度市外に出た子どもたちがいつかは龍ヶ崎に戻って子育てがしたいと感じさせることが私たち職員に与えられた使命である。

## シビックプライド

「シビックプライド」とは「市民としての誇り」と訳される。イギリスでも日本でも、都市環境や建築などの分野から発生した概念であって、それが地域参画、コミュニティの感覚へとつながっていくものである。

参考：伊藤香織『都市環境はいかにシビックプライドを高めるか』

## シティズンシップ

「シティズンシップ」とは「市民性」と訳される。教育との関連でみられ、市民性（参政権、社会への参画への意識、多様性・多文化の尊重、相互扶助意識、ボランティア精神など、市民生活に必要な知識・スキルの習得や意識）の醸成を図るのが目的である。

市民として広く必要なものとしての視点であり、地域に対する愛着や誇りという視点はない。

参考：藤原孝章『日本におけるシティズンシップ教育の可能性』

## シティプロモーション

シティプロモーションは、「地域を持続的に発展させるために、地域の魅力を創出、地域内外に効果的に訴求し、それにより、人材・物財・資金・情報等の資源を地域内部で活用可能としていくこと」である。

本市では、上記の定義をもとに選んでもらいやすいようにまちのイメージを作ること/市民の方々に対し、本市への愛着や誇りなど、いわゆるシビックプライドを醸成しようとする事/市外において認知度向上やイメージアップを図ることと定義している。

参考：東海大学文学部広報メディア学科 河井教授

## PR (Public Relations)

PR(パブリックリレーションズ:Public Relations)は20世紀初頭からアメリカで発展した、組織とその組織を取り巻く人間(個人・集団・社会)との望ましい関係をつくり出すための考え方および行動のあり方。

現代に置き換えると、「これから売りたい商品を、公共性、ニュース性のある場に位置付けてストーリーをつくり、SNSなど新しいメディアを通してまず設定したターゲットに認知させることによって、その商品が受け入れられる社会的な“空気づくり”をするもの。 ※プロモーション(Promotion)の略ではない。

出典：日本パブリックリレーションズ協会

## マーケティング

「マーケティング」とは様々な定義があるが、大枠では「売れるしくみづくり」と解される。三省堂大辞林では「消費者の求めている商品・サービスを調査し、供給する商品や販売活動の方法などを決定することで、生産者から消費者への流通を円滑にする活動。」と書かれている。

売れる仕組みを作るために様々な要素が必要であるとされている。

- ・Product:製品、サービス、品質、デザイン、ブランド等
  - ・Price:価格、割引、支払条件、信用取引等
  - ・Promotion:広告宣伝、ダイレクトマーケティング等
  - ・Place:チャネル、輸送、流通範囲、立地、品揃え、在庫等)
- これらを戦略的に考えることをマーケティング・ミックスという。

参考：フィリップ・コトラー、三省堂大辞林など

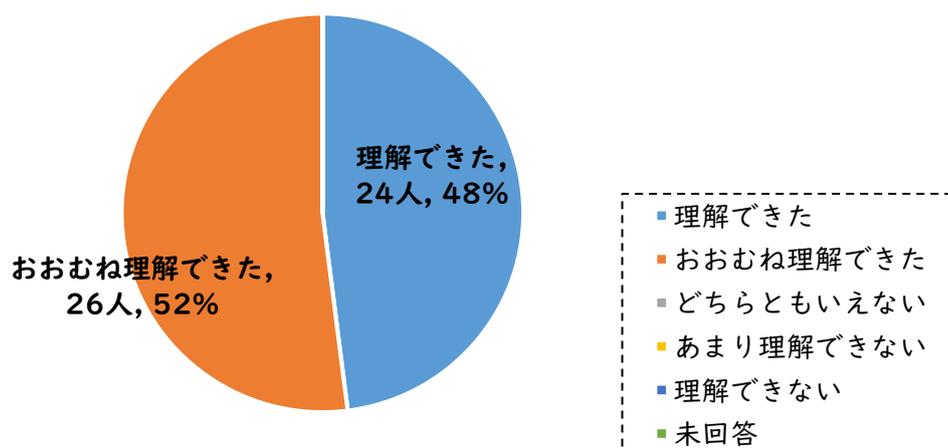
### 3 資料編

#### (1) 成果報告会アンケート結果

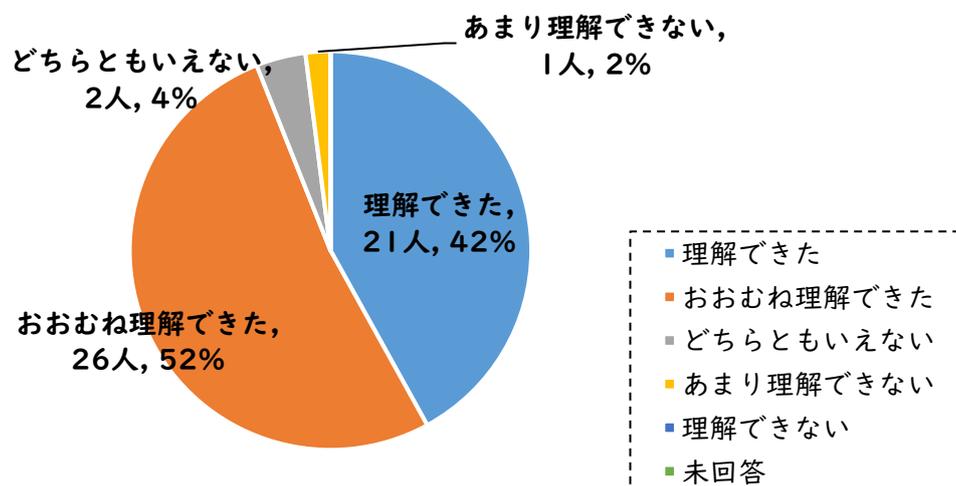
日時：平成31年2月4日（月）午後1時15分～午後2時45分  
場所：附属棟1階第1会議室  
参加者数：55人  
アンケート回収数（回収率）：50件（90.90%）

問1 報告会の内容について、どのくらい理解できましたか。

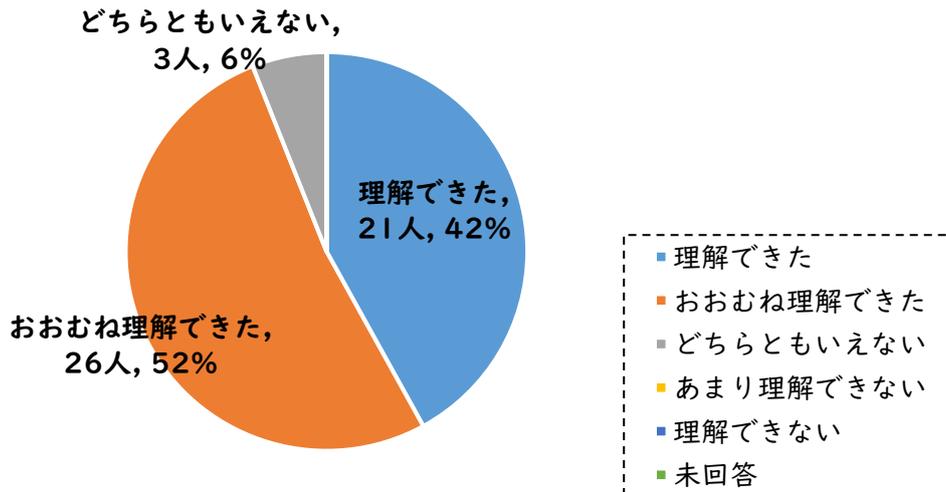
【報告会の全体の内容】



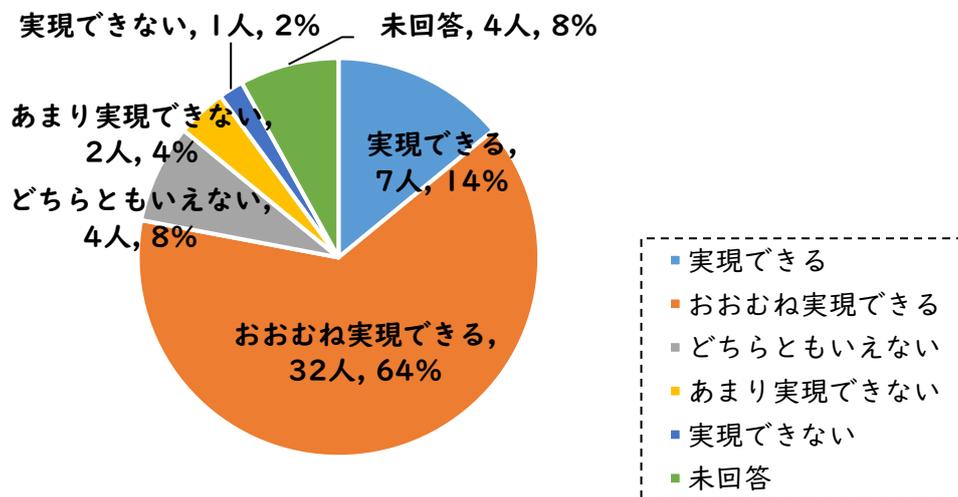
【データ・アンケートの内容や分析結果】



### 【施策提言の内容】



問2-1 報告会の内容について、実現できると思われましたか。

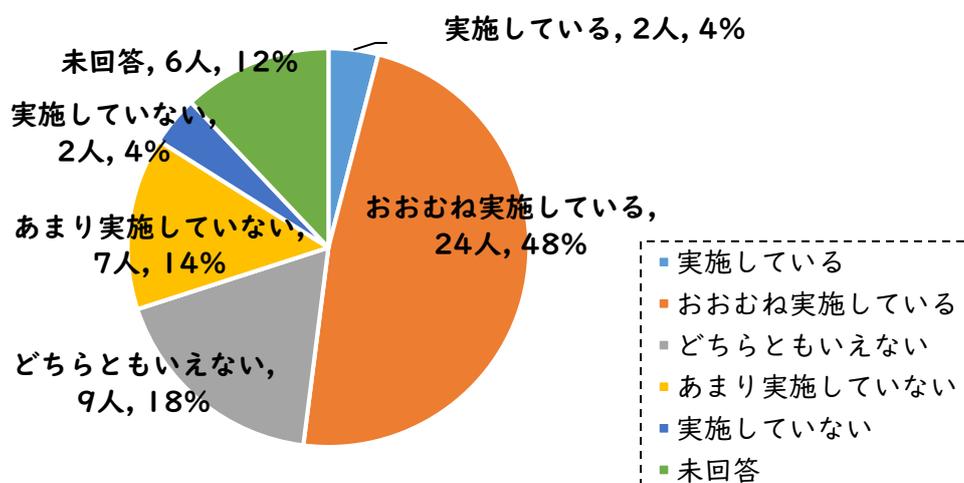


問2-2 問2-1で「どちらともいえない」「あまり実現できない」「実現できない」と回答された方は、なぜそう思うか記入してください。

### 【主な回答】

- ・事業の実施は可能であろうが、効果・成果に疑問が残る。さらなるブラッシュアップを。
- ・そのままの施策案では、実現は難しいと思う。
- ・事業の実施に当たっては、業務量の整理が絶対に必要である。
- ・短期施策で入庁後間もない職員が市のことを学ぶ余裕はない。自発的活動に留めるべきでは。
- ・事業を担当する職員の負担がさらに重くなるだけ。

問3-1 今回の報告でも発表しましたが、施策立案や事業実施に当たっては、的確なデータ収集と分析が必要と考えますが、あなたの課等では、この視点を持って常に事業等を実施していると思いますか。



問3-2 問3-1で「どちらともいえない」「あまり実施していない」「実施していない」と回答された方は、なぜそう思うか記入してください。

【主な回答】

- ・調査や分析は、自身の課等の担当業務外だから。データを収集する必要のない業務だから。
- ・データの収集や分析に対する知識が不足しており、どのようにやってよいか分からないため。
- ・データの収集は行っているが、それを分析や業務へ利用するまでの余裕がないため。
- ・勘や経験が重視される傾向で、事業効果の測定や検証ができていない。
- ・目前の課題解決や業務執行だけで手一杯のため。

問4 定住促進プロジェクトで、今後検討テーマとして取り上げる必要があると思うものは何ですか。

【主な回答】

- ・施策案を実際に取り組む、実践する。
- ・働く場の確保や雇用問題について。
- ・北竜台ニュータウンの今後について（高齢者対策等）。
- ・交通機関について。
- ・商店同士のつながりを深め、交流を活性化することについて。
- ・市職員の市外への流出防止。市職員に市内にどうやって住んでもらうか。
- ・民間企業や学生等と連携した取組について。
- ・子育て環境の充実。親子・子どもの活動できる拠点づくりやイベントについて。
- ・龍ヶ崎市の成り立ちや歴史的・地政学的分析について。

問5 その他，意見等がございましたら御記入ください。

【主な回答】

- ・施策案の計画期間は改めたほうがよいのではないかと。短期1～2年，中期2～3年，長期5年程度か。これ以上長くすると結論が先送りされる感が出てしまう。
- ・「龍ヶ崎で子育てすると，こんな風に子どもが育つ」といったイメージがあると，子育て世代にアピールしやすいのではないかと。
- ・短期施策が失敗すると，中期・長期施策にも影響が出る可能性がある。きちんと構想を整理して，計画を練って，最初の出だして失敗しないように注力したほうがよいと思う。
- ・シビックプライドの醸成には，地縁・血縁は当然ながら，幼少期からの経験や体験の積み重ねで徐々に身に付いていくものである。この視点を様々な施策に反映を。
- ・定住促進は，時間がかかり，結果測定がしづらいので，じっくりと取り組んでいくべき。

## (2) 龍ヶ崎市定住促進プロジェクト設置規程

### 龍ヶ崎市訓令第12号

龍ヶ崎市定住促進プロジェクト設置規程を次のように定める。

平成30年4月27日

龍ヶ崎市長 中山 一生

### 龍ヶ崎市定住促進プロジェクト設置規程

#### (設置)

第1条 人口減少が予測される中，人が集まる魅力ある都市づくりを推進し，人口を呼び込み，人口を減らさないための定住促進施策に関して必要な調査検討を行うとともに，市内の連携した取組を促進するため，龍ヶ崎市定住促進プロジェクト（以下「プロジェクト」という。）を設置する。

#### (所掌事項)

第2条 プロジェクトは，次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 人口動態等定住促進に係る基礎的情報の調査及び分析に関すること。
- (2) 定住促進に係る既存の事務事業の見直し等及び新たな事務事業の創出の検討に関すること。
- (3) 定住促進に係る先進事例等の調査研究に関すること。
- (4) 定住促進に係る市内の連絡調整に関すること。
- (5) その他定住促進に関して必要な事項に関すること。

#### (組織)

第3条 プロジェクトは，次に掲げる者（以下「構成員」という。）のうち，15人以内をもって組織する。

- (1) 財政課，企画課，シティセールス課，こども家庭課，市民窓口課，税務課，交通防犯課，商工観光課，農業政策課，都市計画課，都市施設課，教育総務課，文化・生涯学習課，指導課に所属する職員であって市長が選出したもの
- (2) 前号の規定により選出された職員の所属課以外の課等に所属する職員であって定住促進に関し問題意識を持ち，募集に応じたものうち，市長が選出したもの

#### (リーダー及びサブリーダー)

第4条 プロジェクトにリーダー及びサブリーダーを置き，構成員の互選により選出する。

2 リーダーは，プロジェクトを代表し，会務を総理する。

3 サブリーダーは，リーダーを補佐し，リーダーに事故があるとき，又はリーダーが欠けたときは，その職務を代理する。

#### (会議)

第5条 プロジェクトの会議（以下「会議」という。）は、リーダーが必要に応じて招集し、リーダーが議長となる。

2 リーダーは、必要に応じて会議に関係職員、学識経験者その他関係者の出席を求め、その説明又は意見を聴くことができる。

（報告）

第6条 リーダーは、会議において調査検討した結果を庁議に報告するものとする。

（庶務）

第7条 プロジェクトの庶務は、市長公室企画課において処理する。

（委任）

第8条 この規程に定めるもののほか、プロジェクトの運営に関し必要な事項は、リーダーが会議に諮って定める。

付 則

この訓令は、公布の日から施行する。

### (3) 龍ヶ崎市定住促進プロジェクト設置要領

#### 龍ヶ崎市定住促進プロジェクト設置要領

平成30年4月 市長公室企画課

#### 1 設置の目的

定住促進に係る先進事例等や基礎的情報（人口動態等）の調査分析及び既存の定住促進に係る事務事業の見直し等や新規事業の創出の検討を行い、その結果を庁議へ報告することで、定住促進に係る施策提言を行い、本市の定住促進を推進することを目的とする。また、併せて定住促進に係る庁内の連携強化を図ることを目的とする。

#### 2 構成メンバー

次に掲げる課等の職員のうち主幹以下の若手職員15人以内をもって構成する。若手職員の斬新な発想や高い情報収集能力によりすばやく情報を収集できることを期待し、あわせて、若手職員の仕事に対する問題解決能力や意識の向上を図ることも期待できるため、あえて主幹以下の職員のみで構成するものである。

(1) 企画課，シティセールス課，都市計画課に所属する職員：各1人・計3人

※ 定住促進の主管課

(2) 財政課，子ども家庭課，市民窓口課，税務課，交通防犯課，商工観光課，農業政策課，都市施設課，教育総務課，文化・生涯学習課，指導課に所属する職員：最大8人まで

※ 定住促進の関係課（関連事業や基礎的情報の主管課）

(3) 前2号の規定により選出された職員の所属課以外の課等に所属する職員で募集選考されたもの：最大5人まで

※ (2)及び(3)併せて12人となるよう調整を行う。

※ 構成メンバーの任期は、選任された日から当該年度の3月31日までとするが、再任を妨げないものとする（若手職員の育成面や意見の多様性を図ることからは、できるだけ多くの職員に構成メンバーとなってもらふ必要があり、また、人事異動等もあるため、原則当該年度内とするものである。）。

#### 3 所掌事項

(1) 人口動態等定住促進に係る基礎的情報の調査に関すること。

⇒ 定住促進に係る施策を検討するに当たっては、まず龍ヶ崎市の基礎的情報を調査し、これを分析する必要がある。具体的には、近年の人口

動態（転入者・転出者の数，世帯構成，転入又は転出した住所等）や居住・所有資産の状況（持ち家か借家か，世帯の収入状況等），転入・転出要因調査の結果の分析等が該当する。

(2) 既存の定住促進に係る事務事業の見直し等及び新たな定住促進に係る事務事業の創出の検討に関すること。

⇒ シティプロモーション，住宅取得に係る補助金等直接的に定住促進施策として既に実施している事業はもちろんのこと，その他の事業であっても定住促進と連携することができる事業を見つけだし，事業の見直し等を図ることで，より定住促進に効果の高い事業として編成しなおす等の検討を行い，また，新たな定住促進施策の創出に係る検討を行う。

(3) 定住促進に係る先進事例等の調査に関すること。

⇒ 他自治体の先進事例等を調査・情報収集し，分析を行う。また，業務外でも情報収集を行う「くせ」を付けてもらうように促すことで，職員の仕事に対する問題解決能力や意識の向上を図る。

(4) 定住促進に係る庁内の連絡調整に関すること。

⇒ 定住促進に関する事務事業は，現在それぞれの所管課において実施されており，それを統一的・総括的に主管する部署がなかったことから，プロジェクトがその機能の一部を担えるようにする。

(5) その他定住促進に関して必要な事項に関すること。

⇒ その他必要に応じて勉強会の開催や視察研修等を検討する。

#### 4 事務局

市長公室企画課地域戦略グループ



「人が元気 まちも元気 自慢したくなるふるさと 龍ヶ崎」へ



平成30年度  
龍ヶ崎市定住促進プロジェクト成果報告書  
平成31年2月 市長公室企画課